



第6回 INAS 知的障がい者サッカー世界選手権 2014 ブラジル大会報告書



- 1 御支援頂いた皆様へ御礼申し上げます。
日本知的障がい者サッカー連盟理事長：天野直紀
- 2 INAS サッカー世界選手権 2014 ブラジル大会報告
「闘志なきものはグラウンドを去れ」 日本代表監督：小澤通晴
- 6 知的障がい者サッカー ～知的障がい者のサッカーとはなにか？～
- 7 これまでの「もうひとつの世界カップ」
- 8 INAS サッカー世界選手権 2014 ブラジル大会概要
- 9 2014 日本代表チーム ～目指せ予選リーグ突破！～
- 10 あしあと ～2011 年からの取り組み～
- 11 あしあと ～2014 年日本代表チーム始動～
- 12 多くの応援 ～チームの力になった日本からの声～
- 14 マッチレポート【予選リーグ】「日本 vs ブラジル」
- 16 マッチレポート【予選リーグ】「日本 vs ポーランド」
- 18 マッチレポート【予選リーグ】「日本 vs ドイツ」
- 20 マッチレポート【決勝トーナメント】「日本 vs サウジアラビア」
- 22 マッチレポート【3 位決定戦】「日本 vs ポーランド」
- 24 リザルト ～最終成績～
- 26 もうひとつのブラジル ～Bom dia! BRAZIL!!～
- 27 「守護神」 ～GK 活動報告～ ゴールキーパーコーチ：柳澤 繁
- 28 「筋骨隆々」 ～コンディショニング報告～ アスレティックトレーナー：澤野啓祐
- 30 「戦士の休息」 ～ブラジル生活報告～ コーチ：古谷秀樹
- 33 「水と氷」 ～物品管理報告～ マネージャー：利根川俊介
- 34 日本代表として ～それぞれの想い～
加藤 隆生、徳丸 舜、桜井 嵩比都、徳村 雄登、峰 広志、村山 翔太、山内 康勝、
安達 寛人、浦川 優樹、森山 憂多、木村 和磨、結城 隆、谷口 拓也、川端 義久、
野澤 雄太、高橋 正英、下村 憲成、内堀 嗣円
- 52 「永く熱い闘いを終えて」 ～僕らの旅は 4 年後のロシアへと続く～

第6回知的障がい者サッカー世界選手権ブラジル大会を終えて 御支援頂いた皆様へ御礼申し上げます。

第6回INAS知的障がい者サッカー世界選手権ブラジル大会の選手派遣におきまして、多くの皆様から御支援をいただきました。まずは、この世界選手権出場の前報告の前に皆様に心よりの御礼を申し上げます。多くの御支援を頂きまして誠に有難う御座いました。

この度の世界選手権への日本代表チーム派遣は前回大会同様に苦難の連続でした、資金難により日本代表チーム派遣が危ぶまれておりましたが、多くの皆様に応援Tシャツによる御支援やクラウドファンด์による御支援などでようやく日本代表チームの派遣が出来ました。大変な御心配をおかけ致しましたことを改めてお詫び申し上げます。皆様の多大な御支援は資金面だけでなく、ブラジルでの選手の戦いにも大きな勇気を与えました。そして、我々の活動が今後発展していくために大きな力になったことは言うまでもありません。

知的障がい者サッカー日本代表が世界選手権に参加するのは、今回で4回目となります。大会参加には、知的障がい者サッカーに係わった多くの先輩方、そして現在も活動に尽力している日本各地の連盟スタッフや指導者の存在があり、それぞれの想いがあります。それに加え、選手達の御父兄、勤務先や学校の関係者、さらには多くの皆様の存在や想いが重なり合いました。

世界選手権出場と世界4位という結果はその全ての成果

であります。

今大会に参加したどの国よりもチームが団結して闘い、世界4位という成果を手にできたのは、皆様の御支援により胸に刻み付けた日本代表としての誇りであることは間違いありません、本当にありがとうございます。

国内合宿地として手を上げて頂き、多くの面で協力をさせて頂きました栃木県さくら市の職員や宿舎の皆様、栃木SCの皆様、そして地元の皆様御支援が無ければ、この日本代表チームはこんな良いチームには成らなかつたでしょう、芝生の生育から管理まで全てを私達の合宿のタイミングに合わせて頂き、選手間のコミュニケーションを築き上げるために程良い広さの宿舎を用意して頂き、トレーニングマッチでは特色の違うチームと対戦させて頂きました。東京都三鷹市や三鷹市サッカー協会、宿舎の皆様にも大変お世話になりました。全ての結果に繋がりました。

また、合宿や現地の取材を通して、知的障がい者サッカーの状況を広く伝え、たくさんの方の心に訴えかけていたいただきましたメディアの皆様。練習着や移動着、飲料、テーピングなど多くの物品提供から資金面の御支援まで、積極的に様々な援助を頂きました各企業の皆様、本当にありがとうございます。

今夏は、我々の世界選手権に先んじて、FIFAワールドカップ

日本知的障がい者サッカー連盟 理事長 天野直紀

の本大会がブラジルで開催され日本代表は無念な結果となりましたが「リーガーのOBで結成されたチーム「FCインフィニートス」は壮行試合という形で対戦相手になって頂きました、例えば壮行試合であっても「全力で闘う！」という姿勢は、この日本代表チームに粘りを植え付けて頂いただけでなく、同じサッカーを志す選手達にどれほどの力を与えていただいたことが想像するに余りあります、本当にありがとうございました。

最後に、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、日本パラリンピック委員会、独立行政法人スポーツ振興センターの皆様感謝を申し上げます。

選手登録が複雑な知的障がい者スポーツにあり大変な御協力をいただきました、日本障がい者スポーツ協会と日本パラリンピック委員会の御支援と御指導はなくてはなりませんでした。

また、独立行政法人スポーツ振興センターからの多大な助成金がなければブラジル行きの夢を叶えることはできませんでした。

本当にありがとうございました。本来、皆様一人一人にお会いし御礼を申し上げるべきではありませんが、ここで触れることは叶いません、何卒ご容赦ください、そして、どうか今後とも、知的障がい者サッカーの発展のためにお力添えくださいますようお願い申し上げます。

「闘志なきものは

グラウンドを去れ」

日本代表監督…小澤通晴

1 大会への準備

2010年の南アフリカ大会では11チーム中10位、予選リーグでは2敗と決勝トーナメントに進出することができなかった。世界大会に初めて参加した2002年の日本大会に比べると世界との差は確実に縮まっていることは実感していたが、なかなか結果が伴わなかった。

ブラジル大会では我々の悲願であるグループリーグの突破と決勝トーナメントでの1勝を目標として準備をおこなった。

2012年2月の日本知的障がい者サッカー連盟理事会で、私の日本代表監督統投が決定した。過去の2大会では監督としての準備が半年未満で十分な活動ができなかったが、今回は2年半の準備期間を設けることができた。

過去の大会や準備の課題を受け、日本代表チームの強化をしていくために必要と考える新しい取に組みや継続している事業の見直しなど次の3点について積極的に行なった。

①選手の育成、スカウティング（若手の育成と地域

トレセンの拡大と内容の充実）

②地域の指導者との連携（研修会、指導実践）

③大会レギュレーションの見直し

すべてを世界大会スタンダードにあわせるようにし
ていった。

①選手の育成、スカウティングについては2003年から継続している関東FIDトレセン、東海FIDトレセン（2004）、九州FIDトレセン（2012）、関西FIDトレセン（2013）などの地域トレセンで代表クラスの選手育成を行ってきた。また、東京都や神奈川県、茨城県選抜

チームでは、健常者の社会人リーグへ参戦して、ゲーム経験を積ませることなどを地道に行ってきた。若手の育成では2012年12月に4泊5日でU18代表合宿を行い、代表としてのトレーニングや生活面の指導などを行っ

た。その後2012年3月にU18オランダ遠征（選手・スタッフ自費参加）を行い、海外での遠征経験を積ませた。

この時に選出されたU18メンバーが今回の代表チームに6名入っていることを考えると今後も2018年ロシア大会前にヨーロッパ遠征を計画したい。

選手の発掘では全国障害者スポーツ大会（千葉・山口・岐阜・東京）、東日本大会、全日本チャンピオンシップ、地域トレセン対抗戦を通してスカウティングを行い、代表候補選手を約50名ほどリストアップし、代表候補合宿に招集して選考を行った。

選手選考の基準としては ①メンタル面の強さと協調性 ②サッカーの技術（ボールを止める、蹴る、運ぶ、コンタクトスキル）、フィジカル（パワー、スピード、持久力）が優れていること ③戦術を理解し、実行する能力があること ④トレーニングを継続的に行っていく環境にあることを基準として選考した。



②地域の指導者との連携では、北海道、東海、関東、関西地域で、代表スタッフが選手と指導者に代表のトレーニングを実際に体験してもらった。コーチングデモの後の研修会では代表のコンセプトやトレーニングについて説明を行い、日本代表の取り組みについて地域の指導者の方々と共有することを図った。

また、各地域のトレセンスタッフの方には、日本知的障がい者サッカー連盟技術委員になってもらい、新たなスタッフでの地域トレセンの活性化をお願いした。数人のトレセンスタッフの方には代表合宿にも参加してもらい代表のスタンダードを地域に持ち帰ってもらう取り組みも行った。

③大会のレギュレーションの見直しもブラジル大会の成績には大きくかかわっている。関東(2006)と東海(2012)が地域リーグ戦を開始し、都道府県選抜チーム同士の90分ゲームが確保されるようになった。また、そのリーグ戦の上位2チームが東日本大会に進出し、今まで15分ハーフであった試合を30分ハーフで2試合行うことができるようになった。関西地域も今後リーグ戦を導入する方向で動いているので、各地域に取り組んでもらいたい。全日本知的障がい者サッカーチャンピオンシップも予選2試合は60分のゲームであるが、決勝は90分となった。90分を通じてのゲーム運びやパフォーマンスが必要になったことも今回ベスト4の重要な要因である。

新規の大会としては、プレ大会として2014年1月に大阪で地域トレセン対抗戦が開催され、関東、東海、関西の3チームと大商大附属浪商高校を加えた4チームで60分ゲームのリーグ戦を行った。この大会は全国大会などに出場しない選手の発掘の場になった。今後も選手の発

掘とトレセン活動の活性化のために継続していけるよう要望したい。

2 日本代表チームの構成

代表チームの選手はフィールドプレーヤー16名、ゴールキーパー2名の計18名。スタッフは監督、ヘッドコーチ、FPコーチ、GKコーチ、トレーナー2名の6名と総務として2名、現地の通訳として1名の計9名体制とした。それぞれの役割として、監督は選手選考・起用、トレーニング計画の立案、トレーニング、スカウティング、マスコミ対応等、ヘッドコーチ・コーチはウォーミングアップ、トレーニング、スカウティング、生活面の指導等、GKコーチはGKトレーニング計画立案、GKトレーニング、ビデオ編集、生活面の指導サポート等、トレーナーは選手のけが・健康のケア、マッサージ、テーピング、リハビリトレーニング、リカバリートレーニング、栄養面でのケア等などを行った。総務は物品管理、日程調整、全選手関係機関への文書配布集約、グラウンド調整、リフレッシュの準備、ホームページの更新、記録、マスコミ取材調整、ブラジル大会組織委員会対応等を行った。

3 日本代表チームのコンセプト

コンセプトとして私が掲げたものは

- ①日本代表としての誇り
- ②全力を出しきりチーム一丸となって戦う
- ③全員攻撃、全員守備

である。

日本全国で知的障害者のサッカー選手は約5000名ほどいる。その代表として日の丸をつけてプレーをするという意味を理解させた。選手達にはサッカーだけがうま

いではなく、誰からも日本代表として認められる人間性を持つことを要求した。そして、選手・スタッフが一体となり、予選リーグ突破という目標をかなえるために全力を出しきろうと伝えた。選手はピッチで120%の力を出し切り、スタッフもそのための準備などに最大限の努力をした。全員攻撃、全員守備ではボールがない時にレストしてしまう選手がいないように常に常に攻守にわたりボールに関わり続けることを要求した。

日本代表チームコンセプト

- ①日本代表としての誇り
- ②全力を出しきりチーム一丸となって戦う
- ③全員攻撃、全員守備

A グループ	B グループ
 サウジアラビア	 ポーランド
 フランス	 ブラジル
 スウェーデン	 ドイツ
 南アフリカ	 日本



試合前のミーティング、監督から檄が飛び

(C) JFFID2014

4 大会概要

第6回INASサッカー世界選手権2014ブラジル大会がサンパウロ州グアルジャを中心に8月13日の開幕戦から8月23日の決勝戦まで10日間にわたり開催された。

INASは国際知的障害者スポーツ連盟 (International Sports Federation for person with Intellectual Disability) の略称で世界で60カ国以上の国が加盟している。今回の大会が6回目の開催となり、2002年の日韓EFA (国際サッカー連盟) ワールドカップより、オリンピックとパラリンピックと同様にリンクして開催されるようになった。今回の参加国は8カ国が参加した。アルゼンチンも参加予定であったが、経済的な理由により直前に不参加となった。また、スウェーデンはイブラヒモビッチが渡航費を全額寄付してくれたというニュースが報じられての参加だった。開催国のブラジルや強豪国のサウジアラビア、ポーランドなどが2つのグループに振り分けられ、上位2チームが決勝リーグに進出する。下位の2チームは5〜8位決定戦に回った。

5 大会成績

最終順位は

- 優勝 サウジアラビア
- 準優勝 南アフリカ
- 3位 ポーランド
- 4位 日本
- 5位 フランス
- 6位 ブラジル
- 7位 スウェーデン
- 8位 ドイツ

日本はBグループで初戦開催国ブラジルに2-2、ヨーロッパ選手権3度優勝のポーランドに1-5、2006年ドイツ大会で開幕戦に0-6で敗れたドイツに1-0と勝ち、初めてグループリーグ突破し、決勝トーナメントにコマを進めた。

準決勝はAグループ1位で2大会連続優勝のサウジアラビアに1-0と敗れ、3位決定戦では再びポーランドに0-2と敗れ、4位で大会を終了した。

6、第6回INASサッカー世界選手権2014ブラジル大会の成果と課題

今回の最大の成果はグループリーグを突破し、大会ベスト4の成績を取ることができたことである。2002年の初出場以降1度も勝てなかったヨーロッパ勢に勝ち、ブラジルにも引き分け、1勝1分け1敗で勝点4をとれたことは選手、スタッフとも大きな喜びであり、やってきたことへの自信となった。

ピッチレベルでは精神的に強くなったことがあげられる。初戦のブラジル戦で前半0-1、後半1分で連携ミスから失点し、0-2となった。今ままであればこのままタイムアップという感じだったが、選手・ベンチもあきらめずに最後まで戦い後半43分に同点に追いついた。厳しいトレーニングの積み重ねと勝ちたいという思いがゴールに結びついた。ベンチに走って戻ってくる森山選手をチーム全員で抱きついて迎えた。

フィジカル面ではあたりの強い外国人に対しても、ボールを奪いあい、シュートまでつなげることができるようになってきた。90分のゲームを1日おきに5試合行っても、後半に走り負けることはなく、むしろ日本の方が走

り続けることができていた。以前は中2日での試合であったも、ケガ人（外傷や筋肉系）が続出してメンバーが足りなくなってしまうが、今回はケガをしてもピッチに立てる選手がほとんどだった。

技術面ではボールポゼッションもブラジルやドイツよりも高い割合で保持することができていた。パス・コントロール・サポートの質・動きなど前回大会よりも2ステップあがった。「観て判断し、修正する」ことが少しずつできるようになってきている。ヘディングも攻守にわたり、競り合うことができるようになってきている。GK加藤のシュートストップの技術は素晴らしく、他チームからも大会ナンバワンGKの声も上がっていた。

チーム戦術も今までは基礎的なトレーニングや守備のトレーニングだけで、大会を迎えていたが、今回は課題のセットプレーの守備、チームとしての攻撃に時間をかけて行うことができた。5試合でセットプレーの失点は1点、得点は11点を取ることができた。代表のトレーニングなどを共有し、ボールを止める・蹴るといった技術を高めることを各地域で取り組んでいただいた結果だと思

う。
準決勝で対戦したサウジアラビアはスピード、パワー、技術すべて相手が2枚上であった。サウジアラビアは社会人の地域リーグのレベル+FWはE1クラスのスピードを備えたチームであった。このチームに勝つことを目標にすることは容易なことではないが、正しい方向で積み上げていけば決して不可能ではない。「日本人の良さを理解し、チーム全員が動きの中で、攻守にわたってかわり続けることを日本の方針としていきたい。自分も動きながらボールを動かせる技術、90分動き続けられること体力、外国人に負けない身体づくり、けがの



予防、防止のためのストレッチと筋力トレーニング、ボールがない時も周りを観て、味方のサポートやバランスをとること、集中心を保つことなどが課題としてあげられる。前回もそうであったが、3週間で選手たちのレベルはどんどん上がってきた。毎日とはいわないが、週に2〜3日以上の上の一定レベルのトレーニングを継続してほしい。その積み重ねがないと世界と闘い、勝ちつづけることは難しい。すべての選手が良い環境の中でトレーニングできるように、指導者の方々も選手と一緒に努力を続けていきたいと思います。

2014年日本サッカー協会はグラスルーツ宣言をしました。「Football for All」のもと年齢、性別、障がい者に関わらずだれもが、いつでも、どこでもサッカーを身近に心から楽しめるようにするというものです。日本知的障がい者サッカー連盟も本格的に日本サッカー協会との連携をとれるように準備が始まりました。今後更なる発展が期待されます。連盟の組織を整え、日本協会との関係をつくり、各地域で2018ロシア大会に向けての取り組みと選手の育成を「チームJAPAN」でしていきたいと思います。

最後に選手を派遣していただいた指導者、会社、関係者の方々、合宿先のチーム樽分、さくら市、栃木SCの方々、応援Tシャツを購入していただいた方々、クラウドファンディングで支援していただいた方々、壮行試合のインフィニティスの方々、JFC、連盟関係者の方々、すべての方々に感謝いたします。本当にありがとうございます。Obbrigado !!

- 最終成績 -

優勝	サウジアラビア
準優勝	南アフリカ
3位	ポーランド
4位	日本
5位	フランス
6位	ブラジル
7位	スウェーデン
8位	ドイツ

Obbrigado !!

知的障がい者サッカー

知的障がい者のサッカーとはなにか？

知的障がいとは一般的に見えにくい障害とされています。身体に合併的な症状がみられるケースはありますが、知的障がい自体は身体の障害ではないからです。

1 知的障がい者とは？

知的障がい（ちてきしようがい）とは、一般的には金銭管理・読み書き・計算など、日常生活や学校生活の上で頭脳を使う知的行動に支障があることを指します。発達期（おおむね18歳未満）において遅滞が生じること、遅滞が明らかであること、遅滞により適応行動が困難であることの3つを要件とします。

具体的には知的検査（IQ検査）にて知能指数が70ないし75未満（以下）のものといった定義がなされています。知的障がい者サッカーは世界中で行われており、いわばサッカーのひとつのカテゴリです。そのため、国際組織や国内組織があり、様々な関わり方をしています。

2 知的障がい者スポーツの国際組織

知的障がい者サッカーは世界各国で行われています。それはサッカーだけでなく、ほかの競技でも同様です。それらを取りまとめているのが、国際知的障がい者スポーツ連盟（略称：INAS）という組織です。各世界大会の開催や今後のパラリンピックへの参加、世界における知的障がいスポーツの普及活動もこの組織が中心となって進めています。

INASは1986年に設立され、現在は、イギリスのウェイクフィールドに本部を置き、およそ60の国と地域が加盟しています。なお、今後のパラリンピックへの参加のために、国際パラリンピック委員会（略称：IPC）と連携を行うのも同機関です。

3 知的障がいスポーツ／サッカーの国内の組織

一方、日本知的障がい者サッカー連盟は、日本国内で障がい者スポーツを取りまとめている公益財団法人障がい者スポーツ協会やその中の設置機関である、日本パラリンピック委員会（略称：JPC）の加盟競技団体として活動しています。そして、この度の世界選手権の選手派遣だけでなく、強化や普及も日本知的障がい者サッカー連盟を中心に組織化されています。まだ不十分な面もありますが、今後益々の知的障がい者サッカーを発展させていくためにも大切な組織です。

○全国組織

日本知的障がい者サッカー連盟（東京都練馬区）

○地域組織

地域知的障がい者サッカー連盟

○都道府県組織

都道府県知的障がい者サッカー連盟

※このほか、各都道府県障害者スポーツ協会による運営もある。

4 日本代表選手選考の方法

- 全国障害者スポーツ大会でのスカウティング
- チャンピオンシップ大会でのスカウティング
- 地域トレセン対抗戦でのスカウティング
- 地域トレセンからの推薦
- 関東／東海／関西／九州

←

○代表候補合宿

代表スタッフによる代表候補合宿

ブラジル大会へ向けては、2013年から開始

5 日本代表選手選考の基準

- メンタル面の強さと協調性
- サッカーの技術（ボールを止める、蹴る、運ぶ、コンタクトスキル）、フィジカル（パワー、スピード、持久力）が優れていること
- 戦術を理解し、実行する能力があること
- トレーニングを継続的に行っていく環境にあること

これまでの「もうひとつのワールドカップ」

INAS 知的障がい者サッカー世界選手権大会は、通称「もうひとつのワールドカップ」と呼ばれています。

94年にオランダで初めて開催されたこの大会は、世界中の国や地域が知的障がいカテゴリーの代表選手を派遣してチャンピオンシップを争うとして続いています。

02年日本大会より、オリンピックとパラリンピックのように、IFEAワールドカップ開催年に同じ開催国で行われる4年に1度の祭典となっているためそのように呼ばれています。

なお、この大会はIFEAルールに則り試合が行われており、近年では優勝を争うチームでは、ヨーロッパのプロ2部リーグで活躍する選手の参加も見られるようになってきています。そのほか、競技性だけでなく大会運営やいろいろな活動の中で、知的障がい者自身の成長と地域社会との交流も目的とされています。

日本はこの大会には、02年のFEAワールドカップ日韓大会の後に行われた、日本大会より参加をしています。

また、障がい者サッカーの世界選手権大会は知的障がい者サッカーだけではなく、他の障がい者サッカーでもそれぞれの運営方法でおこなわれており、それぞれの日本代表が出場しています。

■これまでのINASサッカー世界選手権大会

○第1回大会 94年 オランダ、ホーゲベーン市

優勝：ルーマニア

準優勝：スロヴァキア

参加：オーストリア、イングランド、デンマーク、ベルギー、ドイツ、ギリシャ、オランダ、ポルトガル、南アフリカ、スウェーデン
計12の国と地域

○第2回大会 98年 イギリス、レスター市

優勝：ポーランド

準優勝：ブラジル

参加：ブルキナ・ファソ、イングランド、ドイツ、マリ、メキシコ、オランダ、ポルトガル、ロシア、スコットランド、南アフリカ、スペイン、スウェーデン
計14の国と地域

○第3回大会 02年 日本、東京都・神奈川県

優勝：イングランド

準優勝：オランダ

参加：ロシア、ドイツ、ポーランド、ポルトガル、ハンガリー、メキシコ、ブラジル、南アフリカ

マリ、日本、韓国、香港、インド、

サウジアラビア

計16の国と地域 ※日本は10位

○第4回大会 06年 ドイツ

ノルトラン＝ヴェストファーレン州

優勝：サウジアラビア

準優勝：オランダ

参加：イングランド、ドイツ、ハンガリー、北アイルランド、フランス、ポーランド、ポルトガル、ロシア、オーストラリア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、日本、韓国、オーストラリア、南アフリカ
計16の国と地域
※日本は11位
(イングランドは途中棄権、ドイツは失格)

○第5回大会 10年 南アフリカ

リンボボ州＝ポロクワネ

優勝：サウジアラビア

準優勝：オランダ

参加：ポーランド、ポルトガル、ハンガリー、ドイツ、南アフリカ、フランス、トルコ、日本、韓国
計11カ国
※日本は10位

INASサッカー世界選手権 2014 ブラジル大会概要

大会正式名称：第6回 INASサッカー世界選手権

日本選手団 … 27名（選手18名・役員9名）

8月13日（水）開幕試合

2014 ブラジル大会

試合形式

… FIFAのルールに準ずる。

ブラジル vs 日本

英語表記 … 6th INAS World Football

4カ国2グループに分かれ各チーム

8月15日（金）日本 vs ポーランド

Championships 2014 BRAZIL

3試合の予選リーグ。

Corinthians Pitch

大会期間 … 2014年8月11日～8月24日

その後上位2チームは決勝トーナメントへ進出。下位2チームは順位決定戦へ。

8月17日（日）日本 vs ドイツ

開催都市 … ブラジル連邦共和国、サンパウロ州サントス市、グアルジャ市

大会会場

… ○ Guarujá Stadium グアルジャ市内
○ Mursa Stadium サントス市内

8月21日（木）決勝トーナメント
サウジアラビア vs 日本

主催 … 国際知的障がい者スポーツ連盟（略称：INAS）

○ Jabaguara Stadium サントス市内
○ Corinthians Pitch サンパウロ市内

8月23日（土）3位決定戦
ポーランド vs 日本

主管 … ブラジル障がい者スポーツ協会

日程 … 8月5日（火）直前合宿（栃木県さくら市）
8月5日～8日

閉会式
Guarujá Stadium

参加国数 … 8カ国

ドバイ経由

観戦後サンパウロ空港へ

参加人数 … 約240名

8月8日（金）成田空港発
8月9日（土）サンパウロ着
バスにてグアルジャへ移動

サンパウロ発
ドバイ経由

選手約150名・役員約90名

8月11日（月）選手登録確認

8月26日（火）成田空港着、解団式後解散

派遣主体 … 日本知的障がい者サッカー連盟

8月12日（火）緊急監督会議

↓ 組合せと日程変更

（東京都練馬区）

2014 日本代表チーム
目指せ予選リーグ突破!

 小澤 通晴 監督	 西 眞一 コーチ	 古谷 秀樹 コーチ
 柳澤 繁 ゴールキーパー コーチ	 木村 純一 コーチ兼 アスレティック トレーナー	 澤野 啓祐 アスレティック トレーナー
 利根川俊介 マネージャー	 天野 直紀 G マネージャー	

STAFF
/ PLAYER

 加藤 隆生 1 / GK 秋田県 25 歳 ㈱みらい工房 秋商クラブ	 内堀 嗣円 23 / GK 神奈川県 20 歳 ㈱CFS サンズ 横浜 F・マリノス	 徳丸 舜 2 / MF 熊本県 19 歳 JA 熊本県菊池地域 ソレッソ熊本
 櫻井 高比都 3 / DF 茨城県 24 歳 日本メクトロン㈱ 水戸クラブ	 峰 広志 5 / DF 東京都 20 歳 佐川急便㈱ 王子ジャッキーズ	 村山 翔太 6 / DF 東京都 23 歳 佐川急便㈱ 王子ジャッキーズ
 野澤 雄太 17 / DF 東京都 27 歳 佐川急便㈱ 王子ジャッキーズ	 高橋 正英 20 / DF 北海道 16 歳 特別支援学校 札幌 NFC	 山内 康勝 7 / MF 東京都 20 歳 佐川急便㈱ 王子ジャッキーズ
 安達 寛人 8 / MF 島根県 15 歳 特別支援学校 特別支援学校サッカー部	 木村 和磨 11 / MF 東京都 19 歳 アポロビルサービス(株) 王子ジャッキーズ	 結城 隆 13 / DF 東京都 19 歳 佐川急便㈱ 王子ジャッキーズ
 谷口 拓也 14 / MF 鹿児島県 19 歳 ㈱平成メディカル サカたの	 川端 義久 15 / MF 茨城県 22 歳 日立電線ファインテック㈱ 水戸クラブ	 下村 憲成 21 / MF 岐阜県 19 歳 ㈱恵那金属製作所 恵那 FC
 徳村 雄登 4 / FW 京都府 17 歳 特別支援学校 京都 FC. アスカ	 浦川 優樹 9 / FW 東京都 23 歳 エスシービルサービス㈱ 王子ジャッキーズ	 森山 憂多 10 / FW 東京都 19 歳 アトム運輸㈱ 王子ジャッキーズ

あしあと

2011年からの取り組み

2010年もうひとつのワールドカップ南アフリカ大会へ出場し、11チーム中10位という結果で終わった2010日本代表。「外国人と対等に渡り合うフィジカルと国際試合の経験不足」を感じた日本代表スタッフは、若い世代の底上げと国際経験をテーマに2011年ブラジル大会への強化目標としました。

2011年～2012年の日本代表候補合宿は、主に18歳以下の若い世代に注力し、2012年にはU18日本代表候補チームとしてオランダに遠征しました。

2013年度の強化合宿は、ラージ枠で多くの選手を強化合宿に招集し、闘える選手の見極めを行ってきました。オランダ遠征を経験したメンバーのうち6人が今回の2014日本代表に選出され、日本代表18選手のうち11人が20歳以下の選手です。

平均年齢20.6歳の若い日本代表は、見事に予選リーグを突破し、世界4位という素晴らしい結果を残してくれました。

私達がテーマに掲げ実行してきたことが間違いでは無かったと証明された瞬間でした。



オランダを象徴する風景

(C) JFFID2014



練習ピッチも手入れが行き届いている

(C) JFFID2014



(C) JFFID2014

U18 オランダとの試合前の握手

□ 2011年12月 U18日本代表候補強化合宿

茨城県神栖市 4泊5日

□ 2012年3月 U18日本代表候補オランダ遠征

オランダ王国=デ・レイプ市 7泊9日

□ 2012年9月 U20日本代表候補強化合宿

茨城県神栖市 2泊3日

□ 2012年12月 U20日本代表候補強化合宿

茨城県神栖市 4泊5日

※新生日本代表スタッフを決定し、これ以降の合宿ではラージ枠で日本代表候補選手を招集

□ 2013年5月 日本代表候補強化合宿

茨城県つくば市 3泊4日

□ 2013年9月 日本代表候補強化合宿

東京都国立市ほか 2泊3日

□ 2013年11月 日本代表候補強化合宿

茨城県神栖市 2泊3日

U18日本代表候補オランダ遠征

日程：2012年3月23日(金)～31日(土)

7泊9日

滞在地：オランダ王国=デ・レイプ市

内容：トレーニングマッチ2試合

地元チームへ編入してのトレーニング3回

試合観戦2回

オランダ1部チームでの練習見学1回

スタジアム訪問2カ所

参加者：選手14名、コーチ5名、事務局1名、通訳1名

あしあと

2014年日本代表チーム始動

若い世代の底上げとラージ枠での闘える選手の見極めを経て選出された2014日本代表チームは、フットローアツプ選手を含めた22名とスタッフ8名の合計30名で、今年3月の強化合宿からスタートしました。

今まで茨城県神栖市をベースに強化合宿を行ってきた日本代表チームでしたが、5月以降のキャンプは栃木県さくら市をベースに移しました、「チーム樽分」と呼ぶ栃木県さくら市の協力体制は、日本代表チームには申し分無い環境でした。

良く整備されたピッチ、家族のような雰囲気を迎えてくれる民宿樽分、突然のスケジュール変更にも完璧に対応してくれた仁井田観光のバス、そして何よりも気さくに接してくれるさくら市の皆さん、このバックアップが無かったら今大会の躍進は無かったことでしょう。さくら市の皆様、本当にお世話になりました。

2014年8月のブラジル大会で予選リーグ突破を目標にした日本代表チームはこうしてスタートしました。

全5回しかないキャンプは、過酷の連続でした、朝の散歩とは思えない山登りダッシュ、いつまで続くのか分からないシャトルラン、夏の暑さも強敵でした、氷とOSUは欠くことの出来ない必需品となり、無理にでも食べないと体力が保たれない程でした。

しかし、このハードなキャンプが、たくましい体と心、何よりも戦うチームを作り上げました。知的障がい者サッカー日本代表史上最高のチームとなりました。



(C) UCHIDA Kazutoshi

チーム始動となった3月の茨城合宿



(C) UCHIDA Kazutoshi

とにかく身体を追い込む日々

- 2014年3月 第1回日本代表強化合宿
茨城県神栖市 2泊3日
- 2014年5月 第2回日本代表強化合宿
栃木県さくら市 3泊4日
- 2014年6月 第3回日本代表強化合宿
栃木県さくら市 2泊3日
- 2014年7月 第4回日本代表強化合宿
東京都三鷹市 2泊3日
元Jリーガーチーム「FCインフィニートス」と
壮行試合
横浜Fマリノス練習グラウンド
(横浜市西区みなとみらい)
- 2014年8月 第5回日本代表強化合宿
栃木県さくら市 3泊4日



(C) UCHIDA Kazutoshi

松原良香氏率いる「FCインフィニートス」との壮行試合

多くの応援
チームの力になった日本からの声



(C) JFFID2014



(C) JFFID2014

多くの方の願いがこもったダルマ



(C) JFFID2014

現地在住の日本人も一生懸命応援



(C) JFFID2014

試合後に1枚「皆様応援ありがとうございました！」



チームと選手を鼓舞する横断幕は毎試合貼り出した



A代表のサポーターからも横断幕が届けられた

B グループ予選リーグ第1戦 vs ブラジル ブラジル 2-2 日本

「2点ビハインド、終了間際に追いつきドロー」 最低限の勝ち点1を奪取

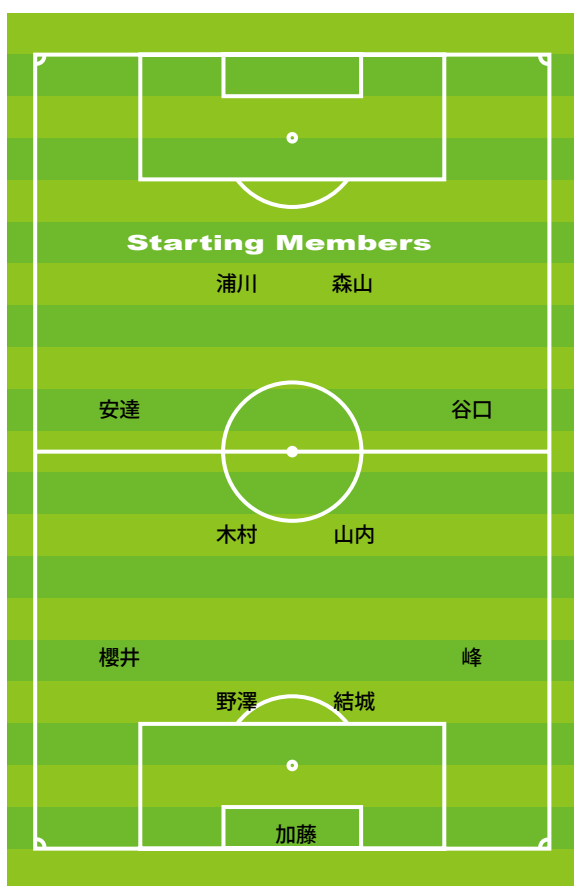
2014年8月13日(水)15:30 Kickoff
(日本時間、翌日 3:30)
グアルジャ・スタジアム
(Guarujá Stadium)

ゲームコンセプト

- 攻撃
 - ・サイドを起点に裏を狙う
 - ・DFラインが低い時は、スルーパスやワンツースでタイミングよく抜ける
 - ・ボールを簡単にさげない
- 守備
 - ・戻るべきところ、バランスをとる
 - ・粘り強い守備(取られなくて抜かれない)
 - ・ヘディングで必ずせる
 - ・ボールを失ったら3秒追う

ゲーム状況

前半から積極的な攻撃をみせる日本は、森山のGKとの1対1や浦川のミドルシュート、谷口のフリーな状態でのヘディングシュートなど数多くのゴールチャンスを活かすことができずにいると前半終了間際、後半開始直後に失点し0:2。
後半41分に浦川、直後の43分に森山が落ちて左足で流し込みとなり、引き分けとなった。



【得点者】

41分 Santos
04分 Santos
81分 浦川
83分 森山

【選手交代】

in Rocha out Candido
in Monteiro out Santos
in Silvia out Duarte
in 徳村 out 木村

【警告】

Duarte (1)
木村 (1)
谷口 (1)

開催国ブラジルとの開幕戦であった。

雨でぬかるんだピッチコンディションであったが、ブラジルの技術（止める、蹴る、運ぶ）は、質の高さを感じた。

日本の攻撃は、サイドを起点にFWがブラジルDFの背後を積極的に狙うことと、それによりDFラインが下がったスペースに森山がドリブルで進入するなどして、ゴールチャンスを多くつくった。

しかしながら、シュートが淡白でゴールネットを揺さぶるまでは至らなかった。

守備においては、ブラジルが中盤を効果的に経由しながら、FWへの鋭い縦パスからチャンスをつくられたが、野澤、結城を中心とした最終ラインの粘り強い守備でそれをね返していた。しかし、前半終了間際の集中力の欠如によるカバールの遅れ、後半開始直後のGKとDFの連携ミスにより失点したことは、課題とするところである。

それでも諦めないのが、若き日本代表の強みであった。

失点後も日本の攻撃は、これまでどおりのコンセプトに攻め続け、それを嫌がるブラジルDFを翻弄した終盤の攻撃力は圧巻であった。

対するブラジルは、個の突破力、球際の強さ、シュート力（キックの強さ、正確性）は、日本を勝る場面が多くあり、日本にとってはそれが課題となった。

前半の日本の時間帯に得点できるチャンスが多かったことなど、試合を日本ペースで進めることができただけに勝てる試合であった。



(C) JFFID2014

同点ゴールとなる83分の森山選手のシュート！



同点ゴールが決まりベンチへ
駆け寄る選手達！
喜びが爆発した瞬間だ。

(C) JFFID2014

B グループ予選リーグ第2戦 vs ポーランド 日本 1-5 ポーランド

「力の差を痛感しての敗戦」 2試合で1分け1敗、後が無くなる

2014年8月15日(金)11:40 Kickoff
(日本時間、同日 23:40)
コリンチャンス練習グラウンド
(Corinthians Pitch A)

ゲームコンセプト

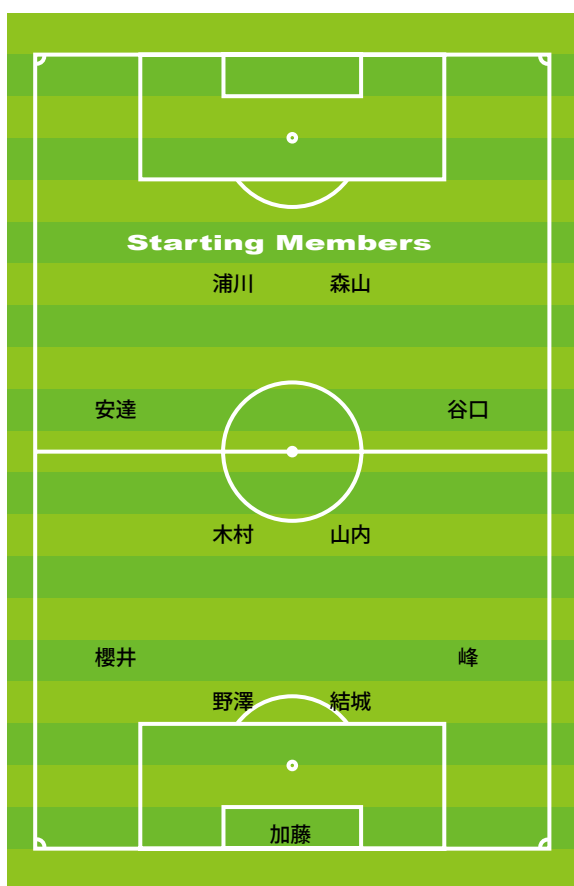
- 攻撃
 - ・サイドを起点に攻撃を組み立てる。
 - ・(相手DFの背後へのパス、DF前にドリブル等組合せ)
 - ・DFの間をワンツーでぬける
 - ・ボールを簡単にさげない
- 守備
 - ・DFとボランチはバランスを崩さない
 - ・粘り強い守備
 - ・ヘディングで必ずせる
 - ・ボールを失ったら3秒必ず追う

ゲーム状況

開始早々から日本は、ポーランドの前に強く迫力あるプレーに圧倒されながらも、ボールを連携して奪い、ポーランドDFの背後を狙う攻撃を仕掛けるが、慌てて放り込んだボールは簡単に跳ね返された。

前半5分には、日本のクリアボールがポーランドの選手に当たり、そのこぼれ球を決められあっさり失点。その後も日本の右サイドを崩され失点を重ね前半を〇で折り返した。

後半は、足の止まったポーランドを日本がパスとドリブルを織り混ぜながら攻撃の主導権握り果敢に攻めるが、最後のところでポーランドの体を張った守備で決め手を欠いた、後半38分の桜井のクロスボールがそのままゴールに入る1点を返すにとどまり、最終スコア1-5での敗戦となった。



得点者】

05分 Michalski
20分 Michalski
30分 Macewko
41分 Michalski
83分 櫻井
86分 Krawczyk

【選手交代】

in Damanski out Stawniak
in Prosowski out Macewko
in Kucybawa out Krawczyk
in 高橋 out 木村
in 徳村 out 谷口

【警告】

谷口 (2) →次節出場停止

ポーランドは、2010年南アフリカ大会の時に、DFに人数をかけシンプルに2トップにボールを入れてくるサッカーであったために日本はその対応に努めた。

しかし、試合が始まるとポーランドのそのサッカーは影を潜め、前の推進力を生かしながら中盤で幅と厚みをもつてボールを動かすサッカーに変化していた。

日本は、DFでしっかりとブロックをつくり粘り強い守備から連携してボールを奪うが、ポーランドのプレッシンクに慌てて思うようなプレーができずに、簡単にボールを失い続けた。

それにより、連続したポーランドの攻撃が続き、失点を重ねる結果となった。

後半になると修正し、前から人をはめて、連携して高い位置でボールを奪い、オフザボール時の周りを観ておくことで慌てたプレーもなくなり、日本の仕掛けに遅れて対応するポーランドDFを翻弄し、完全にボールをコントロールすることができた。

しかし、最後のフィニッシュのところは物足りなく、ワントゥーでDFの間に割って入るなどのアイデアに欠けた。

守備においては、最終DFラインのところで各自がマークを取りながらも、一番危ないところに入ってくる相手選手への対応（マンツーマン又は受け渡し＋声）が遅れるなど、守備の優先順位を意識した守備ができていないことも課題である。

成果は、フィジカルを全面に押し出してくるポーランドのような相手にも臆することなく、フィジカルコンタクトされる前にボールを離しながら人とボールが動き、ゲームを支配できたことである。



桜井選手からのクロスボールがそのまま相手ゴールに吸い込まれ貴重な1点となる

ポーランド DF2人背負っても負けない浦川選手

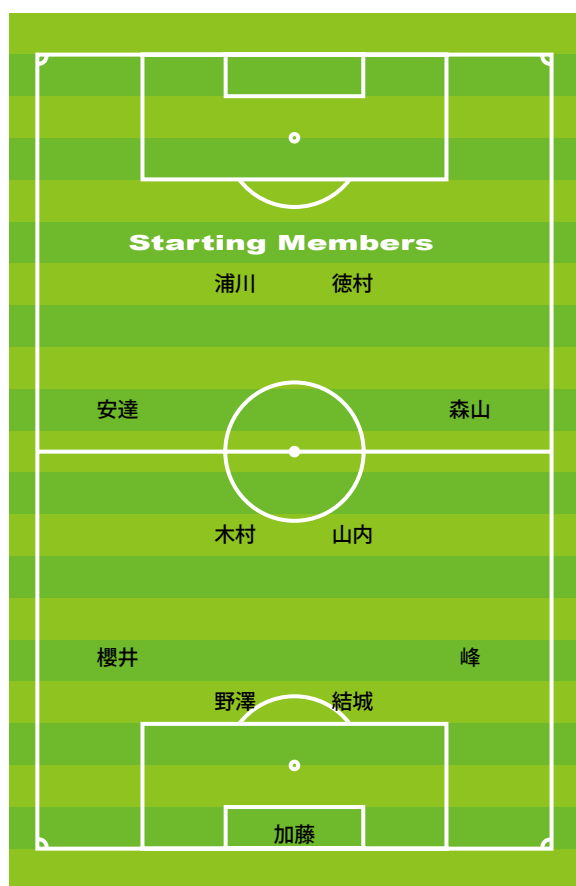


B グループ予選リーグ第3戦 vs ドイツ 日本 7-0 ドイツ

「欧州の雄を 7-0 で撃破！」

1勝1分1敗、勝ち点4で初の予選リーグ通過

2014年8月17日(日)10:00 Kickoff
(日本時間、同日 22:00)
グアルジャ・スタジアム
(Guarujá Stadium)



【得点者】

08分 浦川
23分 徳村
25分 浦川
49分 安達
75分 徳村
78分 徳村
89分 浦川

【選手交代】

in Schuettauf out Greiner
in Bemhardt out Spaeth
in Weisch out Ahifeld
in 徳丸 out 木村
in 下村 out 安達

【警告】

Senftleben(1)(2) →退場
Kuntze → Red 退場
Spaeth(2) →次節出場停止
Ahifeld(1)
Friedrichs(1)
Schoenhoff(1)
峰 (1)
高橋 (1)
野澤 (1)

ゲームコンセプト

- 勝利のみ、今までやってきたことを全て出し尽くす
- 攻撃
- ・サイドを起点に裏を狙う
- ・FWは、意図的にスペースをつくる
- ・これまでのやるべきことの継続
- 守備
- ・試合開始終了の5分間はしっかりと対応する
- ・攻撃している時のリスクマネージメント(バランス)
- ・自陣でははっきりしたプレーをする
- ・コーナー、セットプレーの守備は、マークは明確に、プレーははっきりとする

ゲーム状況

開始早々から日本は、サイドを起点とした攻撃に、2トップが意図的につくったスペースに森山がドリブルで進入するなどドイツDFを翻弄した。

前半8分には浦川のシュートが決まり、勢いづいた日本は前半23分と25分にも連続してゴールを奪い試合を優位に進めた。

次第にドイツは、ラフプレーが多くなり、前半のうちに2人が退場した。後半に入っても、日本は攻撃の手を緩めずに、安達の初ゴールや、浦川、徳村のハットトリックにより7-0で完勝した。

決勝トーナメントに進むには勝利が絶対であった日本は、ドイツの攻撃と守備の特徴をしつかりと分析しその対策が見事に的中した。

日本の守備は、ドイツの孤立するFWを4人のDFでチャレンジとカバーと粘り強い守備を繰り返し、完璧におさえることができた。

攻撃においては、ドイツの守備が3バックで、2トップに対してはほぼマンマークをすることから、2トップを意図的に広げてDFをひきつりだし、MF森山、安達が中央へドリブルで進入したり、2トップがボールサイドに寄ることのできた逆サイドのスペースにMF又はSBが積極的に出てくるなど分厚い連続した攻撃で、ドイツDFを混乱させることができた。

相手が少なくなつた後半は、ボールの主導権は握るもののドイツの引いた守備に対して、狭いところに放り込んだり、プレッシャーの無いところでの簡単なパスミス、コントロールミスを繰り返す場面が多くあった。

野澤を中盤にあげるとボールの動きが良くなり、サイドにボールを動かしながらタイミング良くFWにボールが入り、そこに3人目も関わる状況が増え、得点を重ねることができた。

課題は、個の技術（キック、コントロール、観る・観ておくこと）、攻撃の戦術の理解（スペースがないところでのスペースをつくる動き等）である。



(C) JFFID2014

ドイツ戦でハットトリックの徳村選手
日本はドイツ相手に7-0と完勝した



応援に駆けつけたお父さんの前で
公式戦初ゴールの安達選手

(C) JFFID2014

決勝トーナメント準決勝 vs サウジアラビア サウジアラビア 3-1 日本

「大会 2 連覇中の王者サウジアラビア」

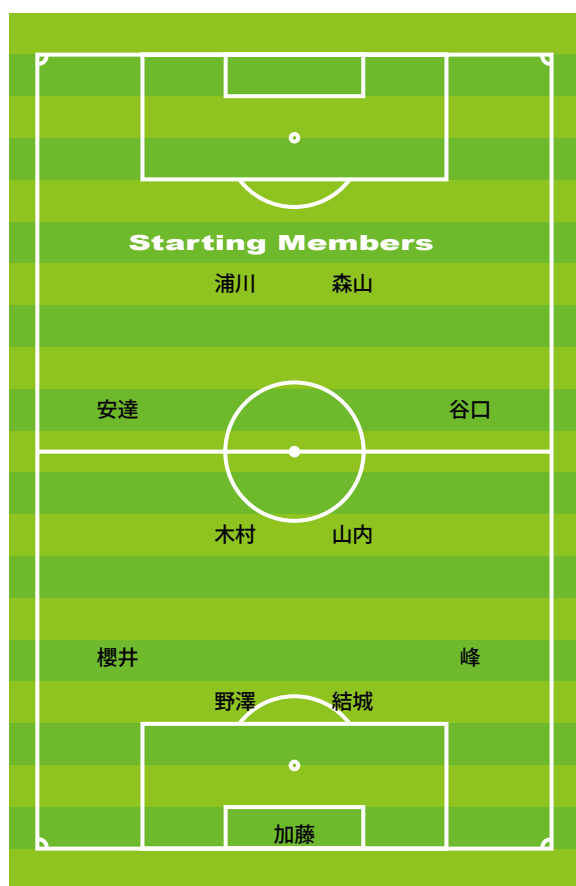
敗戦ではあるが確かな手応え

2014年8月21日(木)11:40 Kickoff

(日本時間、同日 23:40)

コリンチャンス練習グラウンド

(Corinthians Pitch B)



【得点者】

15分 Adosari
20分 Adam
45分 Adosari
90分 浦川

【選手交代】

in Aki out AlhaShash
in Saleh out Adosari
in Sufyan out Aldosare
in 徳村 out 安達

ゲームコンセプト

【我慢強く戦い、常に周りを観て準備をし

限られたチャンスをものにする】

○攻撃

・サイドを起点に裏を狙う

・セットプレーを速くする

・限られたチャンスをものにする

○守備

・試合開始終了の5分間はしっかりと対応する

・クロスボールに対する守備を確実にを行う

・声を掛け合い、粘り強く守備をする

ゲーム状況

狭いピッチと日本のバランスのとれた守備のブロックによりなかなかブロック内に入れずに攻めあぐねていたサウジアラビアだったが、前半15分に日本のクリアした

ボールが日本DFの手に当たりPKを獲得し先制した。

先制したことにより優位に試合を運ぶサウジアラビアに対し日本は、ボールは奪いサイドに起点をつくるもののFWへのボールに精度を欠き、なかなかシュートまでいけなかった。その後もサウジアラビアはボゼツションしながら両サイドが日本DF背後を突く攻撃を続け、時折タイミング良く中央からFWにくさびを当ててブロックに入ってきた。そのなかでサウジアラビアは、日本DFを背負った状態から振り向きざまにシュートを決め、前半終了間際にはこの日2本目となるPKを決めωとした。

後半は、サウジアラビアは積極的に攻めてはこなくなつたが、日本が人数をかけてボールを奪いにいくことで、パスカットやサウジアラビアのミスを生み出し日本ボールになることが多くなりサウジアラビアゴールを何度か脅かしたが、終了間際の浦川の1点にとどまり、ωで敗れた。

初の決勝トーナメント進出により、更に上位進出を目指して臨んだ準決勝であった。相手のサウジアラビアは、前回、前々回優勝と近年においては他チームより頭一つ抜きん出ている国である。

内容がどうであったかといえば、個人技術、個人戦術全においてサウジアラビアが上回っていた。

守備において日本は、リトリートしてバランスを崩すことなく、サウジアラビアのコートいっぱいを使ってくる攻撃にうまく対応していた。

攻撃においては、FWの動き出しが遅いため、奪ってからのカウンターも効果なく、タイミングを失ったボールは、中盤での簡単なパスミスを連続して簡単に失われた。

日本は守備においては、ある程度相手攻撃に対応できるようになった。しかし、守備に回る時間が多くなれば、いくら良い対応をしても失点するリスクは高くなる。ボールを奪ってからマイボールの時間を多くし、攻撃することが今後の課題であろう。

それには、個の技術力（止める、蹴る、運ぶ）のベースアップ、攻撃の優先順位の理解ができたうえで、オフザボールの時に観る・観ておくことでその状況にあった判断によるプレーの体現が必要不可欠である。



(C) JFFID2014

後半の森山選手のシュートは惜しくも相手 GK にはばまれた

決勝トーナメント 3位決定戦 vs ポーランド 日本 0-2 ポーランド

「序盤は日本らしいサッカーをするも」 敗戦で惜しくも4位入賞

2014年8月23日(土)10:00 Kickoff
(日本時間、同日 22:00)
グアルジャ・スタジアム
(Guarujá Stadium)

ゲームコンセプト

【日本らしさを全面に出す】

○攻撃

・両MFサイドにボールを収める

・ボールを簡単に失わない

・オフザボールの時によく観ておくこと

・セーフティに繋ぐ

○守備

・試合開始と終了の5分間はしっかりと対応する

・最終DFラインは、数的優位であれば積極的に高い位置

・をとり主導権を握る

・声を掛け合い、粘り強く守備をする

ゲーム状況

フィジカルに勝るポーランドに対し日本は、ピッチ幅を使いボールを動かしてポーランドの陣地で試合をコントロールした。

対するポーランドは、奪つてからのカウンターで日本ゴール前までボールを運ぶ攻撃が中心となった。

前半、日本は、野澤が負傷退場した直後のポーランドCKで失点し、0-1で折り返した。

後半も一進一退の攻防が続き、GK加藤の好セーブもあり追加点を許さなかったが、最後にカウンターから失点し0-2となり力尽きた。



【得点者】
22分 Prosowski
90分 Krawczyk

【選手交代】
in Michalski out Prosowski
in Macewko out Krawczyk
in Poblocki out Stawiak
in 徳村 out 野澤
in 高橋 out 峰
in 徳丸 out 櫻井

【警告】
Krawczyk(1)
Stefanow(1)
山内(1)
徳丸(1)

今大会最後となったこの試合は、日本らしさを全面に出すというコンセプトで臨んだ。

前線から積極的に連動してボールを奪いにいき、奪った中盤のサイドを起点にした攻撃を試みた。

これまでは、相手のサッカーに対応した戦いをしてきたが、相手が予選リーグでも戦ったポーランドであったことから、ゲームコンセプトどおりの戦いが序盤はうまく機能していた。

野澤が負傷退場してすぐのコーナーからの失点は痛かった。コーナーやセットプレーでの失点はほしくないように現地に入ってからトレーニングをしていたのに、低く速いボールであったが、ニアサイドで触れなかったことが非常に悔やまれる。

後半になると、ポーランドの最終DFラインが下がったままの時間が多くなり、そのDFを引き出すドリブルでの仕掛けや、積極的なミドルシュート、FWのスペースを作る動きなどの工夫が足りなかった。

守備においては、DFラインがブロックを形成しているが、ボールが移動したときに、とるべきマークのポジションを観ながら守備の優先順位を意識したラインの形成（横の距離感）をすることの連続性が乏しかった。

今大会、初の4位入賞という成績に終わったが、守備はこれまでずっと取り組んできた成果が実りつつあるが、攻撃面において、更なるサッカーの理解と個の技術力（テクニック、判断力、体力）向上こそが、これからの日本サッカーレベルアップの鍵となるであろう。



(C) JFFID2014

日の丸に必勝を誓う



(C) JFFID2014

木村選手から安達選手へのスルーパス！



(C) JFFID2014

最後の試合となるポーランド戦スタメン

後列左から、野澤、森山、木村、結城、峰、加藤、前列左から、谷口、安達、浦川、山内、桜井



INAS WORLD FOOTBALL CHAMPIONSHIPS 2014 BRAZIL

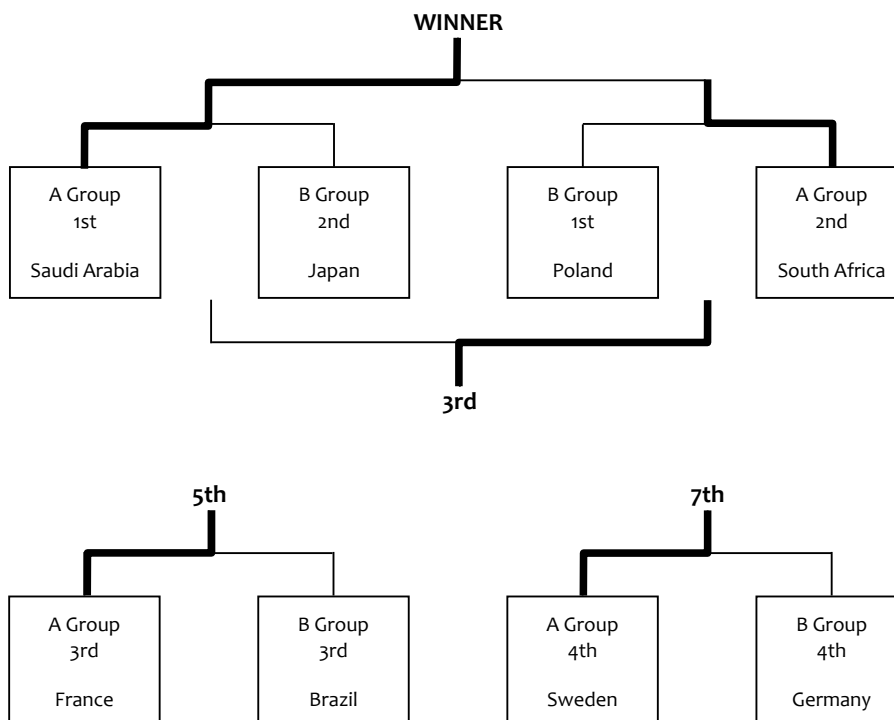
■予選リーグ■

A GROUP	Saudi Arabia	Sweden	France	South Africa
Saudi Arabia		○	○	○
Sweden	×		×	×
France	×	○		×
South Africa	×	○	○	


B GROUP	Poland	Brazil	Germany	Japan
Poland		○	○	○
Brazil	×		△	△
Germany	×	△		×
Japan	×	△	○	

※現地入り後にアルゼンチンが棄権したため、当初の予定より大幅な組み替えとなりました。

■決勝トーナメント■



FINALS INAS WORLD FOOTBALL CHAMPIONSHIPS RANKING



1st	Saudi Arabia
2nd	South Africa
3rd	Poland
4th	Japan
5th	France
6th	Brazil
7th	Sweden
8th	Germany

- Top Scorer(10 goals) Majed Adosari (S.Arabia)
- Best Goalkeeper Michael Wesolowski (Poland)
- Best Player Majed Adosari (S.Arabia)
- Fair play Award Saudi Arabia

August 13th Wednesday	Game 1 Sweden x France 1 x 4	Game 2 Poland x Germany Postponed	Game 3 S.Arabia x S.Africa Postponed	Game 4 Brazil x Japan 2 x 2
August 15th Friday	Game 5 Japan x Poland 1 x 5	Game 6 Germany x Brazil 1 x 1	Game 7 France x S.Arabia 0 x 5	Game 8 S.Africa x Sweden 10 x 1
August 17th Sunday	Game 9 Sweden x S.Arabia 0 x 9	Game 10 France x S.Africa 0 x 3	Game 11 Poland x Brazil 5 x 3	Game 12 Japan x Germany 7 x 0
August 19th Tuesday		Game 2 Poland x Germany 3 x 0	Game 3 S.Arabia x S.Africa 7 x 1	
August 21th Thursday	Game 15 France x Brazil 3 x 1	Game 13 Semifinal 1 Poland x S.Africa 1 x 1 (PK 4 x 5)	Game 14 Semifinal 2 S.Arabia x Japan 3 x 1	
August 22nd Friday		Game 16 Sweden x Germany 2 x 0		
August 23rd Saturday		Game 17 3rd-place Poland x Japan 2 x 0	Game 18 Final S.Arabia x S.Africa 4 x 2	

もっちゃんとのブラジル
Bom dia! BRAZIL!!



(C) JFFID2014

どこへ行っても子供達が集まって来る



(C) JFFID2014



(C) JFFID2014



(C) JFFID2014

決勝戦を観戦するドイツ、スウェーデン、フランス、日本、南ア



(C) JFFID2014

参加国スタッフフットサル大会で日本は見事に優勝!



(C) JFFID2014

練習グラウンドへ続く道、決して豊かな国ではない



(C) JFFID2014

練習グラウンドは荒地、アウェイの洗礼?



(C) JFFID2014

ビーチ脇の歩道、ブラジルの人はおしゃべり大好き

守護神

GK活動報告

GKコーチ 柳澤 繁

1 招集GK

●加藤 隆生（秋田県）

●内堀 嗣円（神奈川県）

2 GKテーマ

- ・攻撃へのスムーズな関わり（効果的な攻撃参加）
- ・DFライン背後のボールへの対応（ブレイクアウェイ）
- ・安全確実なシュートへの対応（シュートストップ、ハイボール）
- ・セットプレーの組織化

3 成果と課題

○成果

加藤はブラジル入りしてから体調を崩すが、高い意識で試合を重ねることにパフォーマンスを上げることができた。内堀もセカンドGKとしてモチベーションを落とすことなく取り組み続けることができ、チームGKとして良いサイクルを日々積み重ねていくことができた。

相手のセットプレー（FKやCK）からの失点を抑えることができ、スタッフの協力のもと良い準備ができた。強い気持ち、積極的な意識により、良いポジションングからのブレイクアウェイ、コーチングが1試合を通してできていた。特にウォーミングアップから自分たちで気持ち

と身体の準備ができるようになったのが大きな成果である。

○課題

シュートストップのとき構えるタイミングが遅く、対応が遅れたり見送ったりする場面が何度か見られた。シューターの様子を見ながらタイミング良くコースを限定し最後までじっくり相手とボールを見て対応できるようにならなければならない。

押し込まれた状況ではコーチングができなくなってしまった。劣勢に立たされたときほど強い気持ちと冷静な状況把握をし、味方を動かし続けながらゴールを守るようになってもらいたい。今回では試合中のPKが4本もあった。味方に冷静なプレーをさせたり、落ち着かせたりする声かけはGKとして全体をコントロールするという意味でも大切である。

セットプレー（特にCK）の守備には課題が残った。もっとポイントになる選手が相手の狙いを敏感に感じ取り、マーキングや細かいポジションングを取れるようにならなければならない。その中でGKのアタックまたはステイの判断をしていけるようにしていきたい。

4 他国のGK

これまで同様にサイズに恵まれている、またフィジカル的な能力が高いなどの特徴はあるがテクニク（特にキッキングやパス&コントロール）が不足しているGKが多い印象であった。ただ、シュートストップにおいては高い能力を感じさせるようなプレーが何度も見られた。攻撃参加もほとんど見られず、効果的に関わり続けるGKは少なかった。

5 まとめ

平均年齢20歳と若いチームで初のグループリーグ突破を達成できたことは、これからの日本の知的障がい者サッカーの大きな一歩となったことは間違いない。しかし、選手層はまだまだ薄いののが現状である。これからも世界と対等に戦う準備をするためにも、各地域の選手、指導者のレベルアップはもちろんのこと、新たに参加できる地域を増やし、日本全体の輪を広げていかなければならない。

GKに関しては、基本的なプレーの精度に磨きをかけていってほしい。

特にシュートストップ（つかむ、弾く、ポジションング）、パス&サポートはこだわっていかなければならない。

また、状況把握を怠らず、相手のプレーを予測して味方を動かし、自らも集中して準備し続ける時間を長くしていかなければならない。これらの継続が世界で戦える選手の育成につながると信じている。



試合前のGKのアップ

筋骨隆々

コンディショニング報告

アスレティックトレーナー 澤野 啓祐

8月5日より行われた事前合宿、8月13日〜24日まで行われた2014知的障がい者サッカー世界選手権においての外傷・障害、コンディショニングについての報告をする。

1 外傷・傷害について

事前合宿から本大会まで骨折、脱臼という大きな外傷が多かった。

まず事前合宿で1名が骨折、本大会期間中には2名脱臼（指、肘）が起きた。

また歩行困難な足関節捻挫もあった。

骨折・脱臼についての詳細は、徳村選手が事前合宿最終日にスライディング時に手を突き橈骨遠位端骨折。ブラジル出発当日の朝に整形外科受診。親御さん、監督、本人と相談し、ひどくなってしまうリスクを承知の上でプ

ラジル行きを決意。

肘関節脱臼の野澤選手は試合中に転倒時に手をつき肘関節脱臼。病院で整復・固定。

山内選手は練習中ボールが手に当たり示指DIP、PIP関節脱臼。こちらで整復・固定を行った。3名とも紹介状を書き、帰国後整形外科を受診。

また中一日というハードスケジュールで疲労による筋肉系の痛みも複数名でている。

そして相手のフィジカルの強さ、激しさにより打撲も多かった印象である。

なによりピッチ環境が悪く、沼のようなトレーニング会場だったため、軽い捻挫や筋肉への負担は大きかったと考える。ピッチ環境が悪い会場でのトレーニング会場では全員、足関節に予防のテーピングを施し対策をとった。

2 コンディショニングについて

今大会は長時間の飛行機、時差、短いトレーニング時間、ぬかるんだピッチ環境などコンディショニングが万全に整ったとは言えなかったように感じる。

時差に関しては、事前合宿からブラジルの時間を意識し、飛行機の中での睡眠時間なども決め調整した。また渡航前に飛行機内での過ごし方を講義し、飛行機内での体調管理も行った。

現地での生活の中で体調不良者が多く出てしまったことが残念である。下痢や風邪のような症状があり、原因は定かではなく想像によるが、食事や水による食あたり、緊張や環境からくる緊張や疲労で便通も悪く、また、朝晩の気温差などが考えられる。今回は食事も選べるほど種類もなく毎日ほぼ内容が一緒だったため選手たちにもだいぶ飽きを感じられ、食事によるコンディショニングも難しかった。



(C) JFFID2014

Muellerのテーピングは毎日使う必需品となった



(C) JFFID2014

恒例となった砂浜トレーニング、時には楽しいトレーニングも取り入れた

3 総括

今大会は事前合宿を含め、外傷・傷害が多かった。ピッチ状態の悪さやハードスケジュールにより起きてしまった外傷・傷害以外に、忘れてはいけないのはストレッチやトレーニングを元々していれば防げるものもあったということ。また体調不良者が多くでてしまい、気温差や食事の対策も今後しっかりと必要と感じた。

今回3月からの代表合宿に帯同した意見を述べる。まず3月からの今大会まで帯同して感じられたことは、柔軟性、筋力、バランス能力、フィットネス能力など足りない選手がとて多いことが一番にあげられる。その差があるまま他選手と同じ強度、量のトレーニングをこなせば必ず何かしらの外傷、傷害が起きるのは当然である。

トレーナーとしての立場から考える対策案としては、まず、フィジカルチェック・フィールドテストを代表合宿初回と中間くらいで行うこと。(今回のスケジュールでいけば3月と、5月か6月)そうすることで怪我也確実に減り、パフォーマンスもあがり合宿などのトレーニングも効率よく行えることが確実である。

内容として、サッカーに必要な筋力、柔軟性などの測定を行う。そして個別に必要なストレッチや、トレーニングなどを個々に指導し改善してもらおう。更にフィールドテストとしては、日本サッカー協会が推奨する持久力や敏捷性など何項目かあげて行い、個々の選手の足りない部分を把握し改善を促す。

代表合宿でせっかく集まり、戦術や技術によりたくさん

の時間を注ぎたいことは十分に理解できるが、直前ではないタイミングでこのような時間を少しでもとることも大切と考える。

普段何もしない選手が合宿に来て毎回痛めて帰るとするのは非効率ではないだろうか。

実際としては専門学生などを多数手伝いに呼んで行えば2時間くらいで終わると思われる。

もう一つ思うことは、フィールドテストでいくつか項目を作った際に、最低基準を設定し、最低ラインを超えるための努力をしようということ。むしろその基準を超えなければ代表に入れないというくらい言い方でもよいと思う。

数値で表すことで選手も超えるために努力しやすくなり、そのようにフィットネスレベルがあがることでチーム力があがると考える。

走るパワーをつけるならただ走っていれば改善してくるわけではなく、キックを強くしたいならただ蹴っているだけでつよくなるわけではなく、それに必要な柔軟性や筋力、体の使い方などの改善が絶対的に必要。そのような戦術や技術以外に身体を改善することが世界と戦うために必要と今回強く感じられた。

個々の選手が地元に戻り、サッカーだけでなく、身体の改善、強化にも着手し、またそれを指導してくれる指導者、トレーナーなどと出会うことを切に願う。

戦士の休息 ブラジル生活報告

コーチ 古谷 秀樹



ホテル中庭の1番人気のあるソファ

(C) JFFID2014

1 サンパウロまでの移動

成田空港からドバイ経由でサンパウロ空港までの道程は、成田からドバイが10時間のフライト、乗り換えまでに5時間の休憩時間をほさみ、ドバイからサンパウロ空港まで15時間、サンパウロからはバスで2時間30分、移動時間だけで30時間以上のハードな移動であった。

2 宿舎（ホテル）の生活

事前にホテル変更の連絡を受け、ホテルについてはある程度の情報を入れていたが、ブラジルについてからまたホテルの変更があり、「チャームホテル・グアルジャ」に宿泊することとなった。2階建ての建物で、MCMが入る部屋に選手は集まり携帯を操作していた。ドイツ、南アフリカ、ポーランドが同じホテルで生活をした。外国の選手は一度部屋に入れてしまうと、こちらの事情を考えずに入ってきてしまうことや、物の交換をしたがること、勝手に物を持って行ってしまうこともあるので、他国の選手を部屋に入れない、ということを選手に伝えた。大会終了後の食事で交流が深まり、選手同士での交流が図れた。

選手の部屋は2人部屋が2つ、3人部屋が2つ、4人部屋が2つの割り当てだった。

予選終了後に部屋替えを行った。選手同士の関係は良好であり、部屋替えをした後も、特に問題は起きなかった。トイレは各部屋にあるが、よく詰まるので、紙を流す際の注意が必要であった。（流さずに備え付けのボックスに入れる）洗濯は、シャワールームで手洗いをしてから脱水機で脱水をして、部屋に干すまでをほぼ毎日行なった。選手たちは自分のことがしっかりとできていた。

食事は朝・昼・晩とバイキング形式であった。

食事メニューが毎日同じだったので、味付けを変えたり、食べるものを変えたりしながら対応していた。また、栄養学などを選手に数回レクチャーしてきたこともあり、好きなものを食べるのだけではなく、バランスよく食べようとしている様子も見られた。小食だった選手も量を多く食べることができるようになった。

3 外出

地域の事情が分かるようになってから外出についての決まりを設け、ルールを決めて選手同士で外出できるようにした。選手同士で外出したのは2回。それ以外ではチームとしてバスに乗って2日目（8月10日）に全員でショッピングをし、8月14日には大きなショッピングモールへリフレッシュを兼ねて行った。

選手同士での外出は午後の3時から5時までの間とし、3人以上で出かけること、行く際の報告、帰る時間を決める、帰ってきたことの報告を義務付けた。徒歩20分くらいのところに大きなスーパーがあり、お土産を購入することができた。ショッピングはよいリフレッシュとなり選手には好評であった。

4 朝の散歩

近くの砂浜で毎日散歩やランニング、ストレッチ、体幹トレーニング、アイスブレイクを行い汗を流した。ストレッチは毎朝、ストレッチリーダーを指名して選手主動で行った。トレーニングでサッカーに必要な動きを入れたストレッチを積み重ねてきたので選手自身がストレッチを深められるようになってきている。各地域に戻っても継続してほしい。

5 チームでの移動

チーム移動の際にはリーダーを2人決め、9人ずつのチームを作り、集合時にはリーダーが人数の確認をしてコーチに報告をすることとした。すぐに定着し、集合がスムーズになった。

6 選手間のコミュニケーション

身だしなみ、部屋の片付け、荷物の準備・片付けの協力、時間を守るなどチームとして決められたこと・ルールに対する理解は定着し、細かな注意などは必要なかった。食事の際には席がグループ化されることもなく、誰とでも一緒に食事がとれていた。食事の様子を見ると、笑顔も見られ楽しそうに食事をしていた。選手同士のケンカなどはなく、孤立している選手も見られなかった。選手間の関係は良好であることは間違いはない。



食事はバイキング形式

しかし、仲が良い人と、あまり親しく話をしない人という括りも見られ、自然とグループピングされていた。合宿生活を共にしてきて、お互いのことがわかってきたことでグループピングされてきたのだと考える。決して悪いことではないが、チームとしてのまとまりには課題があるように感じられた。よりチームがまとまるためにはチームのリーダーとなる存在が必要不可欠である。チームの状況を変えることができる、チームを引っ張れるリーダーを作れなかったことは反省点である。トレーニングやゲームの反省などを積極的に話している状況もあまり見られなかった。仲が良いが、お互いに意見をぶつけ合えていない。生活面で楽しい会話はできるが大事などところで意見を出せあえない状況はピッチ上でも同じである。生活面でお互いに意見を言い合い、解決していくような場面設定をもっと多くしていかなければ



基本はハスタとお肉、これが毎日続く

ならないと考える。

選手たちは大変素直で、指示をよく聞き、決められたことはしっかりと守っていた。しかし、指示を待ち、こちら主導で動いているようにも感じられた。今までの合宿で代表選手としての生活の基本については選手の理解が深まり、行動できるようになった。その上で、生活面でも自ら気付いて行動することや、選手同士で話し合いをして問題を解決できるようにしていくことが課題である。

今後は、チームリーダーを養成すること、選手ミーティングの適切な活用、選手同士で問題を解決させる場面設定などの工夫をしていくことが必要であると考えます。



部屋でくつろぐ選手



チーム物品は手分けして運ぶ

- ・ チームリーダーの養成
- ・ 選手ミーティングの適切な活用
- ・ 選手同士で問題を解決する場面の設定
- ・ 自ら気付き行動に移すためのサポート

課題

- ・ 代表選手としての基本を理解し行動できた。
- ・ チームとしてやること（荷物の準備、片づけなど）の理解は定着した。
- ・ お互いの事がわかり、グルーピングされていた。
- ・ 選手同士の仲は良くなった。

8 長期にわたる生活面の成果と課題 成果

7 トレーナールーム
毎日の厳しい状況の中で、ケガ人が続出した。痛みがあるときにすぐにトレーナールームへ相談に行けることは大変良かった。選手のケガの回復が早くなり、良い状態で試合に迎えた。選手の精神的な安定にもつながった。

日常生活のモデル

【トレーニング時】

- 6:00 起床
- 6:30 玄関集合
体重計測、体温計測、散歩、ランニング、ストレッチ
体幹トレーニング、アイスブレイク
- 7:00 朝食
1日のタイムスケジュールの確認
- 7:30 トレーニング準備
※トレーニング会場が沼状態なことが多いため全員に足首の予防テーピングを施した
- 9:00 バス出発、チーム荷物運び
- 9:30～11:00 トレーニング
- 12:00 シャワー、洗濯、脱水
- 12:30 昼食
- 13:30 体のケア、トレーナールームの利用
- 15:00 サブ組トレーニング（砂浜）
- 19:00 夕食、体重計測、体温計測
- 20:00 ミーティング
- 21:00 荷物準備・確認
- 22:00 就寝

【試合時】

- 5:00 起床
- 5:30 玄関集合、体重計測、体温計測
- 6:00 朝食
- 6:40 荷物準備、テーピング
- 8:00 バス出発
- 8:30 試合会場着
- 11:00 キックオフ
- 13:30 ホテル着
シャワー、洗濯、脱水
- 14:30 昼食
- 16:00 サブ組トレーニング
- 19:00 夕食、体重計測、体温計測
- 20:00 ミーティング
- 21:00 荷物準備・確認
- 22:00 就寝



試合前のロッカールーム、ユニフォームを並べる

水と氷

物品管理報告

マネージャー 利根川 俊介

1 トレーニングの準備

グラウンドの状況はひと月もあれば変化する。そのため、合宿初日はチームより一足早くグラウンドに行き、芝生などのグラウンド状況を把握することに努めた。トレーニング前の物品準備では毎回ボールの気圧調整に苦労した。ボールの気圧はすぐに落ちてしまうために、毎回トレーニング前には気圧を計り、低ければ空気をを入れて、適正気圧への調整が必要であった。メーカーやピブスは監督、コーチの急なリクエストにすぐ対応できるように心がけた。

2 ユニフォームの洗濯

チームの顔であるユニフォームの洗濯には細心の注意を払った。特にAWAY用の白いものに関しては泥汚れが目立つため、試合後はまずは手洗いをした。また試合後は洗濯しやすいようにシャツ、パンツ、ソックスをビニール袋を使って3種類に分けた。袋には脱いだものを選手自ら、その場で入れてもらっていたが、裏返しのものもあり洗濯機に入れる際にしっかりとチェックをする必要があった。ブラジル遠征ではホテル内で自由に洗濯できる場所がなかったため、ホテル内のクリーニングを利用した。その際、クリーニング中にユニフォームが窃盗にあわないよう、枚数を確認し立ち会うようにした。

3 選手の準備や片付けの手伝い

選手にはトレーニング前後の荷物運びを積極的に行ってもらった。1年前には経験者の少ない選手が多かったため、数少ない経験豊富な選手やスタッフが声かけをして、意識づける姿が目立っていたが合宿を重ねることに、皆が意識して荷物を持って行くようになった。また、飲料水のボトルやジャグ、タンクも洗ってもらった。特にスポーツドリンクが入っていた容器はしっかりと洗わなくては、カビがすぐに生えてしまうため、丁寧に洗うように声掛けをした。

3 遠征のための荷物の梱包

最も心がけたことは「いかに荷物を少なくするか」である。飛行機の預け荷物の個数は決まっていたため数内に抑えるため、ジャグなど中が空洞になっているものを使って、他の荷物を入れた。またボールは機内で気圧の影響を受けるため、30球のボールの空気を抜くことが大変であった。

4 水と氷の準備

マネージャーとして一番苦労するのは、飲料水の準備である。日本国内での合宿では、蛇口から出てくる水を飲料水として使うことができる。またトレーニング後のアイシングや、気温が高い夏場の飲料水に多く使う氷も、コンビニエンスストアなどで気軽に購入することができ、特に大きな問題を感じることは無いが、ブラジルで蛇口から出てくる水を飲料水として使うことができない。食あたりになってしまう可能性があるからだ。また、その水を使って作る氷も気軽に使うことができなかつ

た。そのため飲料水、氷ともにマーケットに購入しに行くかなくてはならなかった。1日のトレーニングで水は40〜50L、氷は約12キロ使うため、毎日翌日に使う水と氷を購入しに行かなくてはならない。この2点を一度に購入できるお店は宿舎から歩いて15分の場所にあった。また、宿舎が位置するグアルジャは、日中は複数人ならば安心して外に出歩ける環境であったが、夕方以降は地元の人でもあまり外には出歩かないと話すほど、治安が決して良いといえる場所ではなかった。そのため日中の買い物も他のスタッフと行き、試合等で帰りが遅くなった日はタクシーを呼んで水と氷を購入しに行くことがあった。ブラジルでは英語を使える場所が少ないため、その際はブラジルの公用語であるポルトガル語を話せる通訳とともに購入しに行き、日によっては夜11時にタクシーに乗って購入しに行くこともあった。



白いテープは水、黒いテープはウィダーエナジーキープ

日本代表として それぞれの想い

※読みにくい部分もあるかと思いますが、なるべくオリジナルに近い文章にしており、ご了承ください。

1

加藤 隆生 Takao KATO

GK
秋田県
25歳
秋商クラブ
(株)みらい工房



(C) JFFID2014

ブラジル大会を終えて

このブラジル大会は自分にとって3回目のワールドカップになりました。

決勝トーナメントに進むという目標を持ちこの大会にいました。

初めて日本代表になった12年前は一番若く経験も浅い自分はむがむがゆうでした。このブラジル大会ではもう年々れいにも上で、3大会出場という経験もあり、日本代表に選ばれたことに大きな目標を持った反面チームの中心としてどのようになっているかという不安もありました。初戦“ブラジル戦”2対2の引き分け、手応えを感じました。しかし、次のポーランド戦では負けてしまいました。決勝トーナメントに進むためには次のドイツ戦は負けられない試合になりました。ドイツとは2006年に自分が初の日本代表になった時に一回負けています、その時のことを思い出し、この試合に勝つことを強く思いました。そして、勝利することができ、目標の決勝トーナメントに出場をはたすことが出来ました。このとき、目標としてきたことが実現でき3大会を経験してきて、自分たちは強くなってきたと、目標を達成できる力があることを感じました。決勝トーナメントの初戦はサウジアラビアでした。サウジアラビアとは前回のワールドカップでも戦っています、強い相手だということは十分に分かっていました、強い相手だからこそ今の自分たちはどこまでできるのだろうか、4年前と比べてどのくらい成長できているのかということを考えるとワクワクしました。結果は負けてしまいました。試合をして相手のペースだけではなくチャンスもあった試合だったと思いました、技術面での差より精神面での差が大きいのかなど、その部分をきたえることも今後の課題だと感じる試合でした。

そして気持ちをきりかえて3位決定戦をむかえました。相手は予選で負けたポーランド。この大会最終戦。リベンジにむけ気持ちを高めていきました、最後まで集中し90分間声をかけ続けました。この試合に勝つことができずともくやしかったです。最後に笑って終わりたかったです、しかしこのくやしさが次につながると思いました。大会を終えて、この素晴らしいチームで戦えたことを監督、コーチ、チームメイトに感謝します。この素晴らしい経験をする事ができまわりで支えてくれた人のおかげだと思っています、日本で待っている家族や友人、応援してくださった方々に感謝します、ありがとうございました。

これからについては、今はとくに何も考えていません。サッカーは休み、まずは日本に帰って好きなことをしたいと思っています。仕事を休んだぶん、まずは仕事をきっちりとし、またサッカーをやりやすい環境作りを整えたいと思います。

日本代表に選ばれて

今回、日本代表に選ばれた時に思った事は、うれしかったけど、合宿での練習でいい結果を出せてなかったし、うまく出来てない部分が多くて今の自分の技術や体力などで大丈夫なのか不安でした。でも代表に選ばれて、いろんな人から応援してもらったり支援してもらって、それにこたえられるように、社会人チームで練習したり、自主練習して、代表レベルになれるよう頑張ったけど、まだまだ足りなくて、ミスが多くチームにめいわくを掛ける事が多かったです。それでも、日本代表に選んでもらえたのでうれしかったです。

代表合宿に参加して

代表の合宿は、走る量などにかく練習の量が多いし食事の量をかかなり多くて大変でした。食事では、最初まったく食べることができなくて、くるしかったけど、少しずつでも食べられるようになったと思います。練習では、パス&コントロール、ボールへのよせの早さ、一対一の対応など、ほとんどうまくできていなくて、おこられたり、チームメイトにめいわくをかけたりました。でも、練習をしていくうちに、逆サイドへのパスやせいど、一対一の対応などできてなかった事が少しづつでもできていたので、やり続ければ、うまくなれると思いました。それでも、ボランチとしてのバランスを見たり、ボールの受け方だったりとならない所がまだまだ多いので、できるように頑張りたいです。

世界大会に参加して

日本代表の一員としてブラジルに来て、試合に出る前に練習で足をケガしてしまい、チームに大きなめいわくを



掛けてしまいました。それでも、澤野さんや木村コーチにちりようしてもらって、大会中に走ったりボールをけるまでに回復させてもらって、ありがとうございます。

ドイツ戦でゴール決めて恩返ししたかったです、それをするのができなかった事がくやしかったです。その後も練習に参加していたけど、自分の思い通りにプレーが出来なかったり、足がうまくつかえなくて、くるしかったけど、いろんな人に支えてもらってチームにもめいわくを掛けたので一日でも早く、自分の100%近くの出場チャンスをもたらしたけど、スピード、パワー、体力の差を知って、ミスが多くて、チームの力になれなかった事がくやしかったです。それでも、オランダに行つて試合をした時は、手も足も出す何もできなかったけど、今回の外国人を相手にしてもできる所はできていたので、前より確実にうまくなってるし成長できてると思うので、さらにレベルアップできるように頑張りたいです。

これからの目標

まずは、熊本に帰ってチームにこでのけいけんを教えて全国大会に出れるようにしたいです。それと九州トレセンでも、チームを引っ張って、九州から代表選手が多く選ばれるようになってほしいです。大きな目標として、四年後のロシア大会でメダルを持って帰られるように、まず日本代表に選ばれるように、試合に出れるように今以上に、パス&コントロール、一対一の対応、体力など多くの事をレベルアップしないといけないし、次は、チームを引っ張る選手になれるよう、技術やメンタルを高めて、周りを良く見て声が掛けできるように頑張りたいです。最後に、ブラジルに来るためには、職場で長期の休みをもらったり、いろんな人からお金を出してもらったりと、多くの人から応援、支援をしてもらったので、恩返しをして行けたらいいです。ありがとうございました。

徳丸 舜 Syun TOKUMARU

MF
熊本県
19歳
ソレックス熊本
JA 熊本県菊池地域

2

日本代表に選ばれて

自分は日本代表に選ばれるのが今大会あわせて2回目だったので、自分にとってはリベンジのチャンスがきたと思って、選ばれたときすごく嬉しかったです。前回の南アフリカの大会で2試合目のフランス戦で右肩を脱臼して悔しい思いが前大会はあったので今回また選ばれたときにはなにをしなければいけないかをその時にすごく考えてしまいそれとどうじに足首をすこしいためてしまいかなりあせりました。ですがケガを治していいパフォーマンスが出来れば使ってもらえると思い自分なりに出来ることをその時一生懸命やるときめて頑張れたのでよかったです。このブラジルの地でサッカーをやったかったので嬉しかったきもちがすごくあります。茨城からは自分ともう一人が日本代表に選ばれたので茨城の選手としても嬉しかったですし県の代表としてもいくのでいいのこのらないようにプレーしようと思いました。

代表合宿に参加して

初めの代表合宿はケガでリハビリから参加だったので正直悔しかったです。ですがそこでも自分出来るトレーニングをその合宿は頑張り次の合宿からケガでプレーが出来なかった分動いて自分を見てもらいました。ブラジルに行くまでの合宿で苦しいトレーニングがあったりしてチームについていくのがしんどい時がありました。ですが合宿で代表の皆と励まし合い支え合うことが出来たので、今回の代表はすごくいいチームだなと合宿からずっと思いました。今回の代表は年齢がかなり若いので自分はもう3番目ぐらいに年上になってしまうのでせきにかんかんが少しいやでした。でも皆きがるに話してくれたのでそこはよかったです。栃木のさ

くらの人たちの協力がなかったらここまでいいチームにならなかったと思うのでかんしゃしています。

世界大会に参加して

この大会に参加出来たのは多くの人にささえられなかったら参加出来なかったと思うので凄く感謝しています。その中でも会社や母、自分の茨城のチームの人たちにはかなり感謝しています。会社にはこんなに長期お休みをもらってしまったりチームに援助してくださったりしたので感謝の気持ちでいっぱいです。チームは、ここまでの自分を作ってくださったのでうれしく思います。母には面と向かつては言えませんが「ありがとう」と言いたいです。いろいろな代表の活動を茨城でしてくださったので、とくに応援や応援Tシャツのはんばいに感謝しています。大会に参加して初の予選リーグ突破したので凄く嬉しいです。ですが結果は4位だったので後一つ勝つことが出来ればメダルもとれたので悔しいです。ですがこのチームでだからここまでいい成績がのこせたんだと思います。試合は、ほばなか一日で試合だったので

疲れもたまりケガもしその中で世界大会だったのでしようじききつかったです。最後のポランド戦では、主将の野澤選手が腕を脱臼したりしその中でも試合をしなければならなかったりしたのできつかったです。その中でも皆で声を出したりし最後までプレーをし2対0で負けてしまいましたがチームが1つになって戦うことが出来たのでとてもいい経験になりました。ありがとうございました。

これからの目標

これでサッカーが終わりではなく始まりにしたいと思っています。日本に帰ってから地元茨城でサッカーを続けていきたいと思っています。こじんてきな目標なんです。暖かい家庭を持ち子供が出来たら一緒にサッカーがしたい。4年後は、代表にえらばれるかは分かりませんが、この日本的障がい者サッカーにはなんらかのかたちでかわりたいと思っています。仕事とサッカーのりょうりつを頑張ったやっていきます。

Takahito SAKURAI

櫻井 嵩比都

DF

茨城県

24歳

水戸クラブ

日本メクトロン(株)



4

Yuto TOKUMURA

徳村 雄登

FW
京都府
17歳
京都 FC. アスカ
特別支援学校

日本代表に選ばれて

ぼくは、代表に選ばれたのが今年の2月でした。とつぜん選ばれてとまどいもありそのときサッカーをあまりしていなくてほんとにやっつけていけるのが不安でした。でも選ばれたからにはやるしかないと思い、じもとへかえって練習をしました。京都のコーチから代表があると言う事を始めてきいたときめざしたり、なりたいたいと思いを目標にがんばりました。そして代表になったときはとてもうれしかったです。親たちもお金のじじょうもある中応援してくれたのでよかったです。そのためにもがんばりたいと思いました。

代表合宿に参加して

ぼくは、始めて代表の合宿に参加したのが5月の合宿からでした、始めてあった人ばかりでコミュニケーションがとれるかが心配でした。でもみんな話しかけてくれるので友達になれたのでよかったです。そして練習に



入るといままでニコニコしてた人達の顔が変わりすごいと思いました。ぼくが思っていたかんじとちがってすごいと思いました。周りがしんけんにサッカーしてるのを見ていると自然に自分もしんけんになってました。東京や栃木県さくら市での合宿そしてすばらしいグラウンドでできた事はとても感謝しています。代表メンバーとの実力もだんだんはなれていきあせてました。ついていくのが必でした。きびしいトレーニングもありましたが世界大会のためにとがんばってきました。代表の合宿は楽しくきびしくトレーニングができたのでとても力になってよかったです。

世界大会に参加して

ぼくは、始めての世界大会に参加して楽しみでもあり不安もありました。ブラジルに着いた時はやっと来たなっという気持ちでした。ぼくはずっと世界大会の初戦に出る事を目標にやってきたのですがやはりそんなにうまくは

なくベンチスタートでした。でも自分のでばんが来る事をしんじていました。ついにあのピッチに立てると思つた時はすごくうれしかったです。そのあとのポーランド戦ドイツ戦にも出場できた事はほんとにうれしかったです。外国人と対戦すると自分の実力やまだまだ足りない事がわかりました。できた事はまず得点をとれた事です。できなかつた事は大事な試合で得点がとれなかつた事です。そこが自分のかだいでまだまだだと思いました。

これからの目標

ぼくは、これからの目標として4年後のロシア大会も目指したいと思います。そのためには京都での毎日の練習を大切にしてみようと思つた。サッカーを好きになつてもっと上手になりたいです。そのためには自分のかだいである体力面やフィジカル面をしっかりときたえ外国人にまけないようにしたいです。

日本代表に選ばれて

最初に代表合宿に参加した時に練習についていけず、ずっとグラウンドのわきで、ボールをけつていてみんなと同じ練習がしたいと思ってた。でもあまりにもパフォーマンスが悪くともじゃないけど、次の合宿には招集できないと言われた時にすごい悲しかった。それでもなかなかパフォーマンスが悪く、9月の合宿は落選して、自分で走りこみをはじめて体が動くようになって、11月の合宿にまたよばれて、数日後に日本代表としてブラジル大会に行く通知がきた時は、素直にうれしかった。高校生の時から、世界大会に出たいと思っていたけど、その時はまだ世界大会に出れる体じゃなかったし、本当は南アフリカ大会に出たかったけど、いなくて良かったと思う。日本代表になれたのは、自分一人の力では絶対無理でした。色んな人に支えられたからだと思います。

代表合宿に参加して

代表合宿で、東京以外の人達と一緒に生活するのは、はじめはすごくいやでした。初めての人と一緒に生活するのは苦手だったけど、回数をかさねていく内にだんだんいやではなくなりました。代表の練習は、かなりハードではじめは、ついて行くのでやっとだったし、言われている事もあまり理解できませんでした。それでも、3月、5月、6月、7月、8月と合宿を重ねていって周りが言っている事も理解できるようになったし、今までずっとひかえだつたから、レギュラーとして試合に出たいとずっと思っていました。自分が世界大会に参加できたのは、いろんな人に支えられたからだと思っています。自分一人の力では絶対無理だったと思います。



峰 広志 Hiroshi MINE

DF
東京都
20歳
王子ジャッキーズ
佐川急便(株)

(C) JFFID2014

世界大会に参加してできたこと、できなかったこと

自分は、はじめて世界大会に参加して、できたことは、正直あまりないと思っています。できなかったことばかりだったと思います。初戦のブラジル戦では、2失点にからみ、自分のミスで負けてもおかしくない試合を味方がすくってくれました。続くポーランド戦では5失点中PKをふくむ3失点にからんだし、それ以外でもミス連発してチームメイトにかなり迷惑をかけてしまった。準決勝のサウジアラビア戦でも一対一でふり切られたりして何もできなかった。今日のポーランド戦でも、自分のサイドの裏を何度もとっばされたり、スルーパスを通されたりして、5試合やっただけで本当に何もできなかった。

これからの目標

今大会は、きんちようして体が動かなくて、立ち上がりからミス連発して自分のサイドからピンチになる事が多かったし、外国人のパワー、スピード、圧力に全くついていけなくなる場面がありました。あとは、つねに誰かにひっぱってもらってやっていたので、次の大会では中心選手としてやりたいと思います。次、世界大会に出るにはパワー、スピード、圧力に対応できるように、これから取り組んでいきたいと思っています。そして、4年後のロシア大会も目指したいと思っています。

6

村山 翔太 Syota MURAYAMA

DF
東京都
23歳
王子ジャッキーズ
佐川急便(株)



(C) JFFID2014

日本代表に選ばれて

今回、二回目の日本代表に選ばれました。選ばれた時は、めっちゃくちゃ嬉しかったです。けど、不安もめちゃくちゃありました。自分は、技術もテクニクも、持っていない皆より、へたつぱだし、けど選ばれたからにはこんなこと言ってる場合じゃあないとおもいました。選ばれた日から練習もいつも以上に気合がはいりました。

代表合宿に参加して

第一回目の合宿では、参加選手がたくさんいて、またこれからスタメン争いが始まった、だんだんと合宿やるにつれ仲間、他県となかよくなりました。始めてのころは、人とコミニケーションをとることが嫌いでした。なので合宿はやだなあっておもいました。けど合宿をやるにつれ、だんだんとコミニケーションも取ることができました。それは、練習の時もしゃべれるようになり、練習も楽しくできました。

世界大会に参加して

自分は、四年前にも世界大会に参加しました。そのときは、試合にも出れました。けど、今回ブラジル世界大会には、試合には、いちども出れませんでした。試合に出れなくてめちゃくちゃやしかったです。そしてなにより悔しいのは、チームが負けた時でした。自分は、ベンチで出た選手になって声かけていいかわからずとまどいました。試合終わってサブトレーニングが始まった、ここでアピールすれば試合に出れると思いがんばりました。けどここで風邪?ひきました、二三日寝込みました。練習に参加出来なくて悔しかった。二試合三試合と試合が行われるにつれ、サブだった人が試合に出て行く、試合に出たいと思いました。そして、3位決定戦ポーランドの試合、予選リーグで負けているチームだった、なので強い気持ちで勝ちたいと思いました。けど、前半エースだった雄太さん(野澤選手)が怪我でピッチでた時やばいと思いました。けど雄太さんに変わって山内がキャプテンになり声張ってチームを支えて盛り上げて頼りになってすごいと思いました。結果的には、4位で大会が終わりました。

これからの目標 感謝の思い

ブラジルにきてグラウンドのすごさにおどろきました。ただんだだけ日本でいいグラウンド、いい宿舎を使わせていただいたかと思いました、そしていろんな方々に協力してもらいこのブラジル大会に参加出来てとても嬉しく思いました。ありがとうございます。これからの目標は、また4年後世界大会に参加して次は試合出たいです。そのためには、国内の大会でいいパフォーマンスを見せまたよばれるようにがんばっていきます。



(C) JFFID2014

7

山内 康勝

Yasukatsu YAMAUCHI

MF

東京都

20歳

王子ジャッキーズ

佐川急便(株)

日本代表に選ばれて

最初は、日本代表に選ばれたときはそんなに実感はぜんぜんなかったです。ひにひに、じかんとひにちがたつにつれてすこしづつ実感がわいてきました。沖繩の学校先生や、園の先生に日本代表に選ばれた事をほうこくした時に、おゝ選ばれたか！って言われました。沖繩の学校先生が、おまえは1人で沖繩から東京にでて仕事やサッカーをまいにちがんばってるから選ばれたんだよって言われました。沖繩県代表として、日本代表のほこりをもって。ブラジル大会でかつやくしてこい！ってつく言われました。ことばをきいて思った事がありました。自分は、1人じゃないという事にきずきました。あと、沖繩のちてきのある人たちに自分がんばってる事をみせて、自分もなにかで日本代表になりたいっておもわせるような人になりたいなって思いました。

代表合宿に参加して

日本全国からいいせんしゅが選ばれてあつまつたチームだったので、自分よりすごい人がいっぱいいるんだろうなって思いながら、はじめての日本代表の合宿に参加しました。自分がおもつてたとうりに、うまいせんしゅがいっぱいいました。

その中でも、やっぱりゆうたさん(野澤選手)やうらささん(浦川選手)もりやま(森山選手)かとうさん(加藤選手)はずばぬけてうまかつたです。この中でも自分は、ゆうたさんにあこがれました。なぜかと言うと、ボールをうばわれない事とか、パスのせいどがよかつたからです。で、どんどんゆうたさんと練習や合宿をつみかさねていくにつれて、オレはゆうたさんみたいな人になって、沖繩にかえつた時に、ゆうたさんみたいなボールをうば

われないし、パスのせいどのいい人になって全国大会でかつやくしたいって思っていました。

世界大会に参加して

自分をはじめて参加しました。楽しみでもあり、ふあんでもありました。でも、外国の人としあいはした事があったので、オランダでけいけんしていたので、外国のスピードやパワー、テクニクはだいたい知っていました。ブラジルは、とてもいい国でした。海もきれいだし、めしもうまいし、人はいい人もいっぱいでした。決勝はともすごかつたです。いつかあのピッチにたつていたいのです。ブラジル大会では、くやしい思いをしました。しあいにまけて、あんなにないたのはひさしぶりでした。あの時のくやしさはわすれません。

これからの目標

ロシア大会に向けていちからしつかり自分をみつめなおして、自分のよかつたことわるかつた事を、しつかり自分でしつて、またトレーニングをしていきたいです。自分たちは、きもちでまけているぶぶんがあつたので、ロシア大会では、きもちでもしあいでもかてるチームになつたらいいなと思いました。ポーランドにリベンジじゃなくて、世界にリベンジをしたいです。ゆうたさん、メダルをみんなに、くびからさげさせたいです。

日本代表に選ばれて

僕がこのサッカー日本知的障害者代表に選ばれたのは今年の2月のちゅうじゅんに選ばれました。選ばれたきっかけはある友達のお兄さんがサッカーをやっていてその県代表の試合によんでいただきました、しかも全国大会によばれました。それでその全国大会に出場して決勝までいって優勝しました。その大会の決勝にこのサッカー日本知的障害者代表のかんとく小澤さんがいらっしやっで、やってみないかと小澤さんが親にゆっていただいて、すぐに親はやらさせてくださいと言って僕に言ってきた、でもその時はまだ日本代表にはしようじき自分には早いんじゃないかと思いましたがでもなりたかった夢がとうとう現実になった時はものすごくうれしかったです。親もうれしそうでよかったですし回りの友達にもお前すごいなと言われているのすごくうれしかったです。でも親がともうれしそうにしていたのでとても僕はうれしかったです。

代表合宿に参加して

選ばれてすぐの合宿が3月のいばらぎでの合宿でした初めての合宿だったので他の県の人やかんとく、スタッフの皆さんと話がちゃんと出来るのかと思いつながら合宿に行きました。いばらぎに着いた時にやっぱ全然話せる空気ではなく、え、こいつだれ?とかも言われたりしました、正直やっぱり他の県の人達と話せないと思いましたがまず話しかけてくださったのが東京の浦川さんでした、その時は本当にうれしかったしそのあとの練習とかすごしやすかったです。練習メニューは走りこみ、1たい1、5たい5、8たい8、セットプレーの守備とこうげきの練習をやりましたがどれもきついのもあったん

ですがものすごく自分にとってもいい練習になったので本当にこの日本代表に選ばれてよかったし足りないところを自分でも分かるようになったのでよかったです。

世界大会に参加して

世界大会に参加して出来た事は自分はポジションがサイドハーフですけどどうらへのぬけだしが出来たと自分は思っていますし自分で目標にしていたゴールもとれたのでともうれしかったです。逆に出来なかった事はこうげきは自分がボールを持った時に判断をしましてとられて自分でパニックになってしまった時がほとんどでした。守備の時はサイドに追い込む守備をやっていたのですがサイドまで追い込んでいるのに相手からボールをうばう事が出来なかつた。

これからの目標

当たり前なんですけどひびトレニング、筋トレ、ランニングをしてごはんもたくさん食べて外国人に負けない体に4年後にはなっていきたいです。トレーニングも大事なんですけど一番はごはんをたくさん食べる事が大事だと自分は思っているの自分ではあんまり食べないのでこれからは朝2杯、昼、夜は4杯食べる事をしたいと思います。後キック力をつけていきたいです。

本当に皆さんにはげきれい金、応援Tシャツなどを買っていたいただいて本当に感謝でいっぱいです。学校からはおうだんまくを作ってもらって本当にありがたかったです。でも、一番感謝したいのは親ですここまで育ててくれたおかげでこうしてサッカーもやり日本代表の選手になれて本当にうれしいしありがたいです。後とちぎでの合宿でのさくら市の皆さん、宿のたるわけさんの皆さん

には本当にお世話になりました。やっぱりたるわけさんのごはんはともおいしくて本当にまたたるわけさんにも泊まりに行きたいと思うぐらい最高でした。また4年後にも皆さんの応援が必要となるのでこれからも応援よろしくお願いします。



8

安達 寛人 Hiroto ADACHI

MF
島根県
15歳
特別支援学校サッカー部
特別支援学校

日本代表に選ばれて

うれしい気持ちと、またきびしいトレーニングがくるのかと思うと、ゆううつな気持ちになってしまっていたが、ありました。だけど、4年前もくやしい気持ちがあったので、自分が足りない部分の強化にはげみました。だから、毎週火曜日と金曜日の夜にジムに行き、身体全体の筋力アップが出来る様に努力してきました。あと、水曜日の夜6時〜9時の間で開放している人工芝のグラウンドでシニアの人達のミニゲームにまぜてもらい、自分がにがてとする相手をおかわしてからのシュートをうつことと、ボールを失わないでドリブルすることを意識して頑張ってきました。

代表合宿に参加して

最初はトレーニングするたびに膝が痛くなってしまい見学することもありました。合宿をかさねていくたびに、膝の痛みもなくなり、けがをしないで普通にトレーニング出来るようになりました。練習で自分がにがてとする守備のトレーニングの練習で、すぐ相手のマークをはずしてしまったり、ボールをうばえるのにはうばいにいけなかったり、監督やコーチにどなられてしまい、頭がパニックになることが毎日でした。

世界大会に参加して

ブラジル戦、ドイツ戦、サウジアラビア戦ではゴールをきめられたことは良かったと思います。ポーランド戦では、相手のパワーや圧に負けてしまい、ゴール前ではシュートじゃなくて、パスをしてしまったり、早いプレスがくるとあわててけったり、パスをしてしまったりして、ボールを失ってしまうことが多かったことです。

一対一の場面ではしかけられるのに、簡単に後ろにパスを出してしまい、よわきなプレーをしてしまったことです。

これからの目標、感謝の思い

身体の体幹トレーニングに日々はげみ、外国人にあたり負けない身体作りをする。どんな場面でも確実にシュートをきめられる様になる。一対一の場面では積極的にしかけられるようになる。

波崎の合宿場のみなさん、たるわけのみなさん、栃木の市長方々、まわりで支えて下さったみなさん本当にありがとうございました。周りの支援があったことでブラジル大会までたどりつけたと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。御協力ありがとうございます。



(C) JFFID2014

9

浦川 優樹 Yuki URAKAWA

FW
東京都
23歳
王子ジャッキーズ
エスシービルサービス(株)

日本代表に選ばれて

日本代表に選ばれてうれしかった。前回大会でくやしい思いをしてしまったので、このブラジル大会で思いをぶつけたいと思いました。自分はこの前回大会から今回まで、色々なことがありました。まだ日本代表と言われるまでは、東京の練習をみっちりやっていました。南アフリカ大会で自分が出来なかったことをブラジル大会までに東京のスタッフ一同に自分のマイナス面をうまく伝えるように色々と言ってもらいました。自分にたりないものは筋力、パス、コントロール、ボールのせいど、その他色々ありますが、これをブラジル大会までにプラスに出来るよう東京の練習でたくさんやってきました。日本代表に選ばれて代表を目指して選ばれなかった仲間のために悔いのない世界大会にしたいと思いました。日本代表合宿に参加して

合宿に参加して全国各地から集まったブラジル大会に向けての日本代表候補選手達約25名、その中から地球の裏側のブラジルに行けるのは18名、その中から7名は落選してしまいます。それが自分になってしまうのか不安もありました。この25名の中に自分とかぶっているFWの選手が4人ぐらいいました。その選手に勝たないと日本代表にはならないと思いました。ライバルに負けないうように自分らしいプレーをスタッフたちにアピールしようと思いました。4年前は背番号が15でした。今回も自分は15かなと思っていましたが10番をもらってしまいました。ゆうたさん（野澤選手）からうけついでと自分は思っています。今度は自分を中心となってチームを支えていこうと思います。合宿に参加してまだまだ出来ない所はありますが、10番になったからには、10番としての誇りを大事に頑張っていきたいと思っています。

世界大会に参加して

自分はこの世界大会に参加するのは2度目になります。自分は前回大会の結果があまりよくなかったため今回の世界大会でいい結果を残せたらいいなと思いました。今回の世界大会で自分ができたことは、全試合フル出場ができたことです。それと、ブラジル戦で同点ゴールを決めたことです。チームメイトが喜んでくれてうれしかったです。予選リーグ突破ができたことです。自分ができなかったことは、FWとしてシュートを決めれる所で決められなかったことが多かったです。ポーランド戦でゆうたさんがケガでピッチをはなれて自分がポランチをやることになり自分ではもどるポジションにもどれなかったことが多かったです。ベスト3に入れなかったことが残念でした。

これからの目標

自分はこの世界大会を通じて、自分にたりないものがたくさんありました。それは筋力面やせいどや体力だと思いました。このたりないものを日本に帰って東京の練習でプラスになるように日々努力して、4年後には外国人と同じぐらいのレベルになりエースとしてすばらしい選手になりたいと思います。ロシア大会では今回よりすばらしい結果をのこせるよう頑張りたいです。

10

森山 憂多 Yuta MORIYAMA

FW
東京都
19歳
王子ジャッキーズ
アトム運輸(株)





日本代表に選ばれて

ぼくは、代表に選ばれた時は、うごくうれしかったです。ぼくは、東京選抜にきた時はヘディング、パスとコントロール、なにもできませんでした。監督、コーチにはじめは、こんなやつだれがつれてきたんだと言われて、このチームでうまくつづかないと思っていました。だけど毎週練習に行つて、すこしずつサッカーができるようになって、いつのまにか、代表になって、自分では、かえられなかったのをおぼえています。改めて今、日本代表になれてとてもうれしく思います。

代表の合宿に参加して

日本代表の合宿に参加するのに色々な人に支えられて、特にたるわけの人達には、食事から洗濯、温泉まで色々なことをしてもらいました。サッカーの試合には、いつも応援しにきてくれて、とてもうれしかったです。

世界大会に参加して

世界大会に参加して、できたことは、毎試合スタートで試合にでれたことです。ブラジル大会がはじまる前までは、試合でれるかわからなかったけど、なんとか最後には自分のポジションをくれて試合でることができました。できなかったことは、90分間走り切ることとパスとコントロールです。ちょっと圧力がかかるとあわてて、正確なパスとコントロール出来ない時がかなりありました。

これからの目標

今、ブラジル大会が終わったばかりで、しょうじき今こうかんとくやしさはありません。まだ4年後の目標は話せません。気持ちのせいらがまだできてません。でも、今の自分のプレーには、まだまんぞくはしていませんので、日本へかえったらまた練習していきたいです。

11

木村 和磨 Kazuma KIMURA

MF

東京都

19歳

王子ジャッキーズ

アポロビルサービス(株)

日本代表に選ばれて

僕が、日本代表に選ばれて最初はじっかんがあまりわきませんでした。外国人選手ともやったことないし外国にもいったことがなかったので不安で自信もなかったです。でもだんだん練習ないようが世界戦をいしきしてる練習内容だったり日本代表合宿をするのがふえてきて応援してくれる人やサポーターしてくれる人がふえてきて自分が日本代表選手なんだとじかくしました。日本代表になったからにはいままで一緒に練習や合宿をやったけど代表になれなかった人の分や応援してくれる人の分までがんばらないといけないなと思いました。日本代表は日本を代表としえらばれたのでいままでいじょうに練習をしないとだめだなあと思いました。

日本代表合宿に参加して

合宿に参加して日本のいろいろなところからきた人と練習やとにもすごすのは最初はすごくなにはなしていいかわからなかったです。でも合宿をかさねて一緒にすごして一緒に練習しているうちにチームワークがでてきました。いまではすごくいいチームだと思えます。練習ではやっぱりきつい練習で大変でまわりの人たちもうまいし強いのでレギュラーあらしも大変でした。でもそのあらしで少しづつだけどうまくなつていったと思います。合宿に行くにはお金もなくてはならなくて交通ひも参加ひもだしてくれてそのためにもがんばらないと思つてました。親や先生には本当にかんしゃしています。合宿や練習はキツかったけど親や先生の気持ちがあつてここまでこれたし世界でかちたいて気持ちがあつたからここまでこれました。

世界大会に参加して

世界大会に参加して僕は、ほとんどが初めての経験でした。海外まで飛行機でいくのも外国にいくのも外国人選手とやるのも初めてでいろいろ不安でした。海外にきて一番思つたことは、日本ではあたりまえだと思つてたことがあたりまえじゃないって一番思いました。食事は朝昼夜は毎日おなじ食事で大変でした。

これからの目標

これからの目標は、まずは、四年後また日本代表に選ばれて、世界大会で優勝することです。



(C) JFID2014

13

結城 隆 Takashi YUKI

DF
東京都
19 歳
王子ジャッキーズ
佐川急便(株)



谷口 拓也 Takuya TANIGUCHI

MF
鹿児島県
19歳
サカたの
(株)平成メディカル

日本代表に選ばれて

日本代表に選ばれて嬉しかったのと不安でいっぱいでした。自分は日本代表でやっていけるか自信がなかったです。日本代表に選ばれたかぎり一生けんめい頑張つてやろうと思つてました。日本代表に選ばれたときほかの選手と話せるのかと不安がありました。日本代表にきていろんな人と話せるようになったし友達もふえました。さيشよは友達できるかなとかいじめられるんかなとか思つてました。話したらみんないい人でやさしい人ばかりで日本代表に選ばれて本当によかったと僕は思つてます。日本代表に選ばれたとき学校の先生や親からおめでとうと言われたのがうれしかったし日本代表でもが

ばろうち思いました。日本代表に選ばれたときテレビのNHKの人が学校にきてしゅざいとテレビにもでることがおおくになりました。僕はNHKの人がきらいです。NHKの人がきたときサッカーやめようかなとかいっばい思いました。でもこれまで日本代表でやってこれてうれしかったです。

日本代表合宿に参加して

日本代表合宿に参加して練習こんなにきついんやな、ついでいけるのかな、じしんもつて自分のプレーできるかなと思つてました。合宿にきてさيشよはじしんがなくてみんなから谷しつかりしろよとかいわれたりしまし

た。つらいときもありました。サッカーやりたくないとか合宿中に思つたりしました。つらいのは一人じゃないち言うのをコーチに言われて僕はしよつくやくやしいち思いました。コーチとかせんしゅに言われて自分はいちうち思つたし、もつとがんばろうち思いました。たるわけ(宿舎の民宿)のごはんともおいしかったし、たるわけのおばちゃんの話しとてもおもしろかったし、おふるやとまりのとこまでじゅんびしてくださつて本当ありがたいがとうございました。

世界大会に参加して

世界大会に参加して自分は外国つてこんなにもサッカーがうまいし、からだも日本より大きいし、足もはやいし、世界大会に参加して自分がたりないところとかがいっばいみつかりました。世界大会に参加して外国のせんしゅのテクニクがどんだけうまいかもわかりました。自分がたりないところがいっばいわかりました。世界大会に参加していろんな外国の人となかよくなれたしとてもおもしろかったです。世界大会に参加してひとまわりせいちようして日本にかえつたらまた一からがんばりたいと思ひます。外国人と話したり遊んだりするのちこんなにも楽しんだち思ひました。服とかバッチもこうかんしました。世界大会にきて本当によかったです。

これからのもくひょう

これからのもくひょうとしては、4年後の世界大会のメンバーにえらばれたらいいと思つてます。4年後までサッカーやつてるかわかりません。これからのもくひょうは卓球にがんばつてみようと僕はかんがえてます。

日本代表に選ばれて

自分が日本代表に選ばれておもったこと、さいしよは、うれしいきもちとふあんなきもちでした。はじめての海外えんせいで世界大会、はじめて会うメンバー、自分人見知りなので、コミュニケーションをとれるかふあんでした、それと、れんしゅうについていけるかもふあんでした。自分がなぜ代表に選ばれたかを毎日かんがえてました。

代表合宿に参加して

はじめてさんかしたときは、れんしゅうもせずさんかしてケガをしてリハビリぐみでれんしゅうをみていることしかできませんでした。二回目の合宿でれんしゅうにさんかしたとき、れんしゅうについていけず、すぐにボールをおうのをやめていました。ほかの県のメンバーとのコミュニケーションをとれず合宿中は一人になることがあった。

世界大会に参加して

はじめての世界大会だったのできんちょうしました。世界大会に参加してできるようになったことはパスのコントロールがブラジルにくる前よりできるようになりました。さいしよのれんしゅうで、はしるトレーニングをしてはしるのがつらかったけど、すなはまでのトレーニングをしているうちにすこしつらさがなくなりました。大会に参加してコミュニケーションがとれたのでたのしくトレーニングができました。

これからの目標

ブラジルでのトレーニングをおもいだしながら、自分か

らトレーニングにとりくみ、たのしみたい。めざせれば、ロシア大会をめざしたいです。大会前、れんしゅうもせずめいわくをかけ、なにもできずにおわりましたけど、世界大会にさんかできていいけいけんができました。ありがとうございます。



(C) JFFID2014

15

川端 義久 Yoshihisa KAWABATA

MF

茨城県

22 歳

水戸クラブ

日立電線ファインテック (株)

17

野澤 雄太 Yuta NOZAWA

Team Captain

DF

東京都

27歳

王子ジャッキーズ

佐川急便(株)



(C) JFFID2014

日本代表に選ばれて

大会に参加するのは三回目ではありましたが、素直に選ばれて嬉しかったです。前回、前々回の大会では思ったように結果はでず悔しい思いだけが残ったのを覚えています。その悔しさがあつたからこそ選ばれたことに嬉しさがあつたのかなと思います。今回、最年長でキャプテンもやらしてもらい正直ものすごいプレッシャーがありました。あまり考えず力抜いてやろうと大会前は思っていました。そうもいかず色々考えてしまいました。キャプテン？最年長？正直何をすれば正解かなんて考えてもよくわからなかつたです。自分が心がけていたのはピッチ内では状況によって今、何が必要かを考えてそれを実行するようにしました。ピッチ外では今回、若い選手が多くそれに加え東京の選手も固まっていたので、なるべくいろんな県の人とコミュニケーションをとろうと心がけていました。

代表合宿について

合宿では東京合宿、樽分での生活これといって大きなトラブルもなく皆サッカーに集中できていたと思います。樽分の方々や合宿を開催するにあたってサポートしてくださった方々に感謝を忘れずにいたいです。

世界大会に参加してできたこと、できなかったこと

今回、過去参加した大会の中で、プレッシャーはありましたが、緊張や不安はみじんもなかつたのに自分でも驚きました。なぜかと考えたとき最高のチームメイトと最高のスタッフと最高の監督がいたからだと思います。チーム全体が一つの目標に向かって突き進めたことが良かったんだと思います。

監督が常に言ってきた闘う集団、闘志無き者はグラウンドを去れ、中一日で試合があり気持ちの整理、体のケアなど万全じゃない状態でも、そこだけはやりきれたのかなと感じています。戦術やシステムも大事かもしれないけど、一番大事なものがチーム全体に浸透してたことが結果に結びついたのではないかと思います。

できなかったこと、勝てる試合で勝てなかつたこと、最終戦ケガで最後まで皆と戦えなかつたことがすごく悔しかったです。

今後の目標

四年後、今の段階では…

日本だいいょうにえらばれて

ぼくは中学2年の時にがっしゆくに行ったんですけど行く時はふあんがいつばいあって、ついて行けるかとか、はじめてあう人にコミュニケーションとれるかとか、いろいろふあんがいつばいだった。いちどだけ練習についていけないって言ってあきらめてたぶんがあつて、がっしゆくにさんかしてない時があつて、あきためた時に、学校の先生や友だちやおやにはげましてもらって、自分ならできるとてじしんがついてだいいょうをやめることになかった。

だいいょうがっしゆくにさんかして

はじめてさんかした時は中2でした。中学生が1人つてしつた時はついていけるかふあんでした。練習とかプレーにぜんぜんついていけなくてゲームの時もパス、コントロール、まわりを見るがぜんぜんできなくて、かんとくにどなられてばかりでした。でもずーつとがっしゆくにさんかするたんびに、さいしよにくらべてだけどパス、コントロール、まわりを見るのがすこしだけできるよようになった。

せかい大会にさんかして

はじめてせかい大会にさんかしたけどふあんがいつばいでした。たとえば外人にせりまけないとか体力もつかとかいろいろふあんでした。しあいのはじまってぜんしあいベンチスタートでしあいを見る時が多かつただけどサブ組でめっちゃめっちゃ練習をがんばつてしあいにでれました。

これからのもくひょう

もしロシア大会にえらばれたら、しあいにせんばつで出れるようにパス、コントロール、まわりを見るを出来るようにふだんの練習からパス、トラップにこだわつて練習する。

20

高橋 正英 Masahide TAKAHASHI

DF
北海道
16歳
札幌NFC
特別支援学校



(C) JFFID2014

21

下村 憲成 Kensei SHIMOMURA

MF
岐阜県
19歳
恵那FC
(株) 恵那金属製作所



(C) JFFID2014

日本代表に選ばれて

僕は、日本代表に選ばれて嬉しさが半分、うまくプレーできるかの心配が半分でした。2年前に、2018日本代表でオランダ合宿がありました。そこで、海外の選手の手を実感しました。それから年月がすぎてブラジル大会の日本代表選手に選ばれて、2018日本代表のころは学生でしたが、こんどは仕事しながらサッカーをしているときなので、どれだけ個人練習が大事かと、ちゃんと仕事ができるとダメでした。最初は、仕事場の人に日本代表に選ばれた事をつたえるとき、1ヶ月は仕事を休んでブラジルへ行く事は迷惑で嫌がれると思つて最初の方は黙ってましたが勇気をだして報告したら、ものすごい応援してくださったり、会社でお金をあつめてくださっ

たりして自分はいろんな人にきさえられて日本代表になつたと実感しました。

代表合宿に参加して

代表合宿に初めて参加して最初はほかにどんな選手がいるかわからなくてほかの選手と話してできるか不安でした。練習はやはり県選抜とちがつてハードな練習ばかりでした。ですが、自分の力がちよつとずつ上がっているのを実感しました。それから代表合宿でケガをして自分のたりない部分、個人のトレーニングがたりないという事も分かりました。たるわけの人のうまいご飯と応援してくださったり、さくら市の人がグラウンドを準備してくださつてサッカーできてとても感謝しました。

世界大会に参加して

外国と日本の環境の違う中でサッカーをやるのは精神的にきつかったです。がだんだんはじめる事ができました。世界大会で試合にはほぼでられなくて、自分の弱さがよくわかりました。ブラジルへくる前に自分で準備が甘かったのが試合にでれなかったのをわかりました。世界大会をつうじて言葉も通じないどうしだけど交流して仲よくなつてサッカーというスポーツのすばらしさをあらためて実感しました。ブラジルの人のささえでグラウンドがつかえたりして外国でもいろんな人にささえられてサッカーをしているんだとわかりました。

これからの目標

自分はこの世界大会をつうじて何がたりなくて試合にでれなかったのかを実感しました。これからはがんばります。

日本代表に選ばれて

僕は、日本代表として初めて選ばれて本当にうれしかったです。僕は高一の時に部活ではハンドボールはあるのがなつと思いましたが、ハンドボールがなく、僕はGKを続けると思ってたサッカー部に入りました。結果的に神奈川県代表・関東トレセンと段々と選ばれることがうれしいです。僕は日本代表に選ばれてから仕事の休みを11回から9回にしたり、トレーニングを毎日やったり、横浜Fマリノスフトウーロからの取材や新聞にのったりするなど大変でしたが有名になつたことがとても一番の思いが入りました。あと、皆様の集めたお金が闘志がみなぎっていました。

代表合宿に参加して

僕は、代表合宿に参加して一番良かった所は、人と人のコミュニケーションです。僕は最初からおしゃべりをするのがなく、人とかかわることが出来ませんでした。でも、僕はしゃべる所をチャレンジしようと思えました。あと、GK練習の時にしゃべり続けることのおかげで友達が増える事が出来ました。僕は、代表合宿の最終日の時にスタメンで2回ぐらい選ばれた事がうれしいです。これが一番の思い出にのこりました。樽分のあばちゃんの手が出てボールを止めた事が最高でした。うれしかったです。

世界大会に参加して

僕は、世界大会に参加して出来た事は、自分がサブメンバーで声を出して応援をして、あとGK練習の時、最初の時はポジショニングが取れていませんでしたが少しずつ修正を整えてきた事が柳澤コーチの教えてくれた事で心

が燃えました。出来なかつた事は、GK練習のクロスボールの時、前に積極的に行くと思いましたが自分が負けてしまい、声が出なかつたり、前に行かなかつたりしていました。あと、試合が5試合あつて全部サブメンバーで途中出場がなく1試合も出る事が出来ませんでした。僕は、3大会連続出場に加藤隆生選手がすごいGKで22日と23日のGK練習の時、僕は相手がいてクロスボールの練習でうまくいけませんでした。加藤隆生選手の教えてくれたおかげで少しずつ覚えるようになりました。心から思っています。

これからの目標

僕は、これからの目標としては、ロシア大会で選ばれていけば1試合だけ多くの試合に出る事と、僕は、しつれないなことを言いますが、4年後のワールドカップは出ないかわりに知的障害者はあるかわかりませんがゴルフの世界大会で練習を毎日やったり、トレーニングを一生懸命やって絶対にここにいる監督・コーチ・このいるメンバーの皆様、そして日本で応援してくれた皆様、これからは絶対に優勝して勇気を出して戦っていこうと思います。僕は、サッカーを続けます。友達を増やしてGKの練習やつた事教えてGKの人数を増やして、僕は他の選手のGKが神奈川代表に成長するように取り組んでいこうと思います。世界大会に選んでいただきありがとうございます。あと、トレーニングを毎日続けたいと思います。

23

内堀 嗣円 Hidemitsu UCHUBORI

GK
神奈川県
20歳
横浜F・マリノスフトウーロ
(株)CFSサンズ



永く熱い闘いを終えて 僕らの旅は4年後のロシアへと続く



Photo:Yuko DEMURA

1つのエピソードを最後に書かせて頂きたい。

8月23日、チームとして最後の試合となった3位決定戦。相手は予選リーグで「5」で負けたポーランド。

前半途中でキャプテンの野澤選手が倒された、駆け寄ったトレーナーからベンチへのサインは「X」肘が脱臼しているのは明らかだった。そのまま救急車で病院に運ばれた。

前半の残りは約10分。

キャプテン野澤が去ったピッチ。

ベンチには、彼が大会を通して履き続けたスパイクが置いてあった。

0対1で迎えたハーフタイム。

野澤選手とともに3大会連続で出場し、公私ともに仲の良かったある選手が、野澤選手のスパイクのことを知ると

「後半は俺が履く!!」

「ユウタとともに最後までプレーする!!」

と言って、野澤選手が履いていたスパイクを履きピッチへ出て行った。

しかし、無情にも終了のホイッスルは吹かれた。

彼らの永く熱い闘いは終わった。

結果としては0対2で負けてしまったが、このようなチーム内の「強い絆」も過去最高の大会4位という結果を導くことができた理由のひとつだろう。

SPECIAL THANKS

堀江車輛電装株式会社
日本メクトロン株式会社
Müller ミューラージャパン株式会社
ウィダー in 森永製菓株式会社
DALPONTE 株式会社 ZOTT
Adidas アディダスジャパン株式会社
Yakult 株式会社ヤクルト西日本支店
株式会社トラベルデータ
株式会社丸広百貨店
Lili
株式会社グロリアツアーズ
(独法) スポーツ振興センター
(公財) 日本障がい者スポーツ協会
日本パラリンピック委員会
NPO 法人日本知的障害者スポーツ連盟



本誌記事、写真の無断での転載は著作権、肖像権の法律によって禁止されています。
記事や写真のお問い合わせは発行元までお願い致します。

All rights reserved. (c) JFFID2014 / 日本知的障がい者サッカー連盟

発行元：日本知的障がい者サッカー連盟

東京都練馬区光が丘 2-7-3 info@jffid.com

発行 / 編集：天野直紀



スポーツ振興基金助成事業

独立行政法人日本スポーツ振興センター